

平成 26 年度自賠責運用益拋出事業

「学童期・青年期にある高次脳機能障害者に対する
総合的な支援に関する研究」

目 次

1) 研究概要	P 2
2) 各分担研究概要	P 3
3) 平成 26 年度活動報告	P 4
4) 平成 26 年度調査について	P 6
5) 倫理審査委員会の申請状況	P 6
6) 資料一覧	P 7
資料 1	
基本情報票及び記入上の注意	P 8
資料 2	
①学童期の集団活動に必要なプログラムの検討に関する調査票	P 1 1
②医療機関と教育機関の支援の連携についての検討に関する調査票	P 1 7
③小児期高次脳機能障害者の家族支援プログラムの検討に関する調査票	P 2 6
④青年期における社会適応活動と就労支援プログラムの検討に関する調査票	P 5 0
⑤青年期における就労定着支援システムの検討に関する調査票	P 7 2

1) 研究概要

平成 22 年(2010 年) にはすべての都道府県に高次脳機能障害支援の拠点機関が設置され、成人期の地域生活や就労に関する支援は、どの都道府県でも取り組まれるようになった。しかし、小児期に発症した高次脳機能障害児・者に対する支援は、未だ十分には取り組まれていない。

小児期発症者の社会復帰先は、多くの場合、教育の場である学校になる。復帰先のあることで「小児は成人期発症者よりも恵まれている」と誤解されることが多い。しかし、現実には、成人期発症者の復職や新規就労に比して復学に際しての猶予期間はほとんどないといった厳しい環境に置かれている。また、小児期の脳は可塑性に富み回復力があり、小児期発症の高次脳機能障害者の予後は比較的良いとされている。しかし、対象者本人の回復速度を遥に凌駕する速さで、他の子どもたちは成長しており、同年齢者との関係ではその能力は相対的には悪くなり、適切な対応がなされなければ落ちこぼれていくといった現象が起きる。

教育終了後も、就労経験がなく社会的人間関係の取り方を体験的に学ぶ機会がないまま就労するため転職を繰り返したり、非現実的な職業選択希望を持ち続けて居場所を無くすなど、成人期発症者とは異なる難しい問題が存在する。こうした環境が長く続くことで「二次障害」とも言える新たな問題を惹起することが多い。

一方小児期発症者の家族が抱える問題、例えば障害受容などにおいても成人期発症者や発達障害児の家族と異なる課題がある。これらについての総合的な支援モデルが示されていないのが現状である。

これら小児期発症者を取り巻く環境に対し、その後の長いライフスパンをその人らしく過ごせる支援方法や内容を、医学・教育・就労・家庭からの多角的なそして総合的な支援モデルを作成することが求められている。

このように、小児期に発症した高次脳機能障害者の長いライフスパンでの支援内容や連携のあり方を、多角的総合的に示した支援モデルを全国に提供することは、小児期発症の高次脳機能障害児・者のみならず、他の多くの障害児・者にとっても貴重な支援プログラムになりうると考えられる。また、小児期発症の高次脳機能障害児・者への取り組みには地域間および職種間格差が見られており、この事業と通じて均霑化を図ることが期待できる。また、今日まで実践されてきた各分野の小児期発症の高次脳機能障害児・者の支援を参照しつつ、新たな多角的総合的な支援モデルを作成することにより、これらのモデルが全国規模に広がることで、高次脳機能障害児者の支援の質の向上に寄与しうる。

2) 各分担研究概要

①学童期の集団活動に必要なプログラムの検討

教育現場などの集団活動の場で起こる不適応行動などの様々な問題に対する支援プログラムの検討—高次脳機能障害支援事業として開始する児童デイ事業をもとに教育関係者と共同で教育現場で起こる不適応行動への支援策を検討—

(分担研究機関：諏訪の杜病院)

②医療機関と教育機関の支援の連携についての検討

学校教育機関と医療機関との連携と役割り分担に関するモデル体系の確立
(分担研究機関：神奈川県総合リハビリテーションセンター)

③小児高次脳機能障害者の家族支援プログラムの検討

小児高次脳機能障害当事者支援および家族支援プログラムの検討—特に親がよき理解者になるための支援プログラムの検討—

(分担研究機関：聖隷三方原病院)

④青年期における社会適応活動と就労支援プログラムの検討

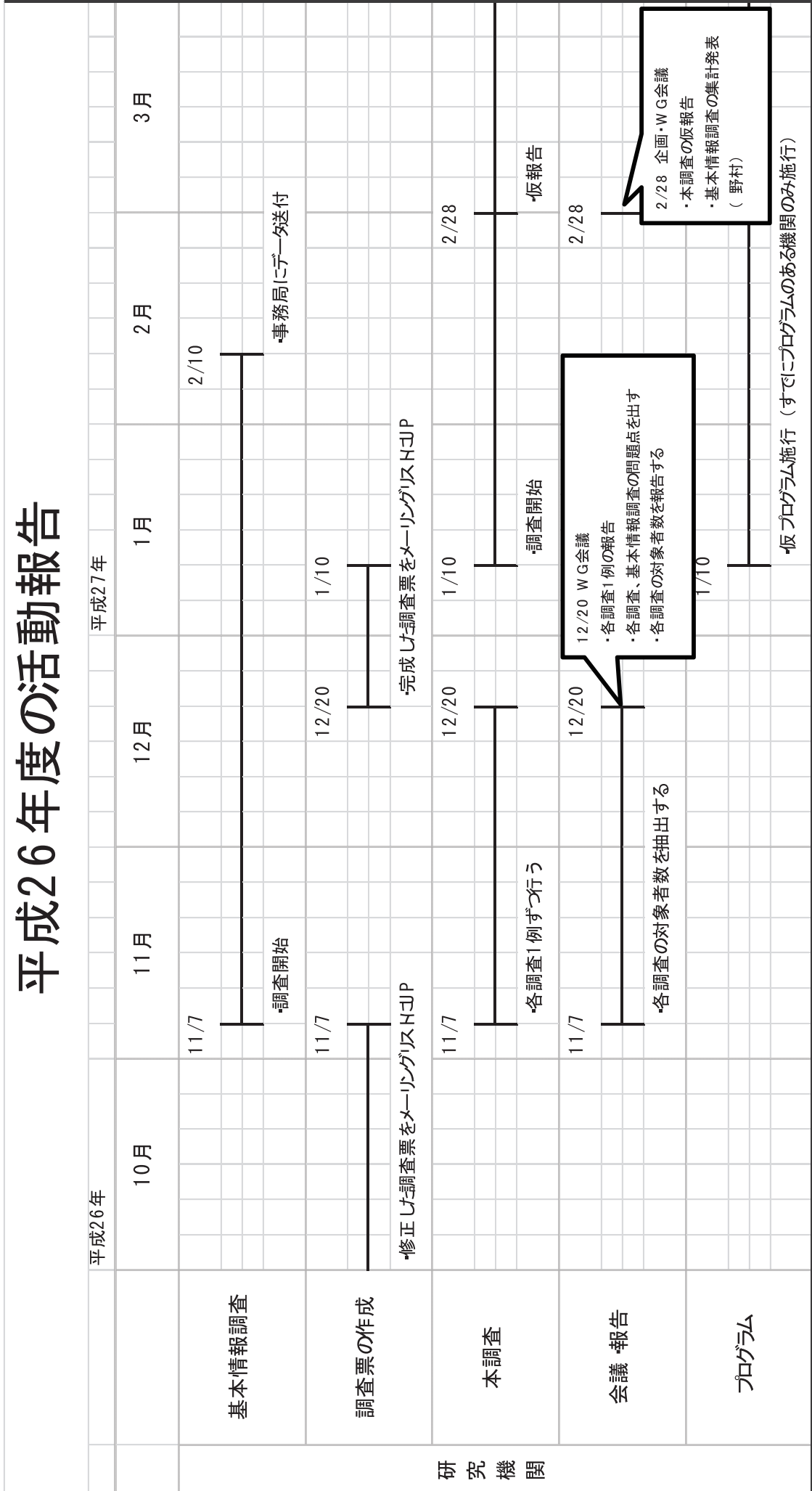
青年期グループでの社会適応活動に関する事業の統合とまとめ
(千葉リハビリテーションセンター)

⑤青年期におけると就労定着支援システムの検討

4の研究を受けながら、既に職に就いている青年達への就労定着を目指した、就労支援機関との共同連携のあり方を検討する
(分担研究機関：富山県高志リハビリテーション病院)

3) -① 平成 26 年度活動報告

日 時	会議名	活動内容など
平成 26 年 6 月 1 日 (日)	第 1 回企画・ワーキンググループ合同会議	・各協力機関にて、各調査票（案）の作成を開始。
9 月 6 日 (土)	第 2 回ワーキンググループ会議	・試案完成・検討。 ・各協力機関にて各 1 例ずつの調査試行を開始。
10 月 14 日 (火)		・メーリングリストでの討論を開始。
12 月 20 日 (土)	第 3 回ワーキンググループ会議	・試行で明らかになった調査票などの問題点の収集と修正。
平成 27 年 1 月 10 日 (土)		・各調査票の完成。 ・本調査を開始。
2 月 28 日 (土)	第 2 回企画・第 4 回ワーキンググループ合同会議	・平成 26 年度活動報告書の完成。



4) 平成 26 年度調査について

分担研究班	アンケート実施する対象者		回答者		
	発症時年齢・条件	アンケート実施時の年齢・条件	本人	家族	その他
諏訪の杜病院 分担研究①	18 歳未満発症	小・中学生、高校生 (6～18 才未満)	◎	◎	◎担当 教諭
神奈川県総合リハビリ テーションセンター 分担研究②	小学生以上（幼児期発 症者を除く） 18 歳未満発症	年齢制限をもうけない。復学 時点のことが答えられる方で あればどなたでも良い。		◎	
聖隷三方原病院 分担研究③	18 歳未満発症	調査時に大学生を含めた学校 生活を送られており、復学後 3 か月以上経過したケース。	◎	◎	
千葉県千葉リハビリテ ーションセンター 分担研究④	18 歳未満発症	高校生以上（4 月 1 日現在、満 15 才以上）40 歳未満		◎	
富山県高志リハビリテ ーション病院 分担研究⑤	18 歳未満発症 就労経験者（非正規就 労（バイト）も含む）	40 歳未満	◎	◎	

5) 倫理審査委員会の申請状況

分担研究班	倫理審査の有無	承認年月日
諏訪の杜病院 分担研究①	有	H27. 1. 13
神奈川県総合リハビリテーションセンター 分担研究②	有 (高志リハ病院)	H25. 9. 7
聖隷三方原病院 分担研究③	有	申請中
千葉県千葉リハビリテーションセンター 分担研究④	有	H27. 1. 23
富山県高志リハビリテーション病院 分担研究⑤	有	H25. 9. 7
石川県高次脳機能障害相談・支援センター 分担研究⑤	有 (高志リハ病院)	H25. 9. 7
福井県高次脳機能諸障害支援センター 分担研究⑤	有	H27. 2. 2

6) 資 料一覽

資料1 基本情報票

資料2 調査票

- ①「学童期の集団活動に必要なプログラムの検討」調査票
(分担研究機関：諏訪の杜病院)
- ②「医療機関と教育機関の支援の連携についての検討」調査票
(分担研究機関：神奈川県総合リハビリテーションセンター)
- ③「小児高次脳機能障害者の家族支援プログラムの検討」調査票
(分担研究機関：聖隷三方原病院)
- ④「青年期における社会適応活動と就労支援プログラムの検討」
(分担研究機関：千葉県千葉リハビリテーションセンター)
- ⑤「青年期におけると就労定着支援システムの検討」
(分担研究機関：富山県高志リハビリテーション病院)

資料 1

①基本情報票

基本情報票及び記入上の注意

記載日 年 月 日

お名前 (ID)	()	生年月日	昭和 平成	年	月	日	年齢	歳
性別	男性 ・ 女性	住所	〒 都 道 市 区 府 県 町 村					
問 1. けがや病気になられた日はいつ頃ですか？	昭和・平成 年 月 頃 歳 年生							
問 2. 高次脳機能障害支援の専門機関に初めてご相談された日はいつ頃ですか？	昭和・平成 年 月 頃 歳 年生							
問 3. 高次脳機能障害と診断された日はいつごろですか？	昭和・平成 年 月 頃 歳 年生							
問 4. 障害原因についてお答えください。	☐ 外傷性脳損傷 ☐ 脳血管障害 ☐ 低酸素脳症 ☐ 脳腫瘍 ☐ 脳炎・脳症 ☐ 不明 ☐ その他							
問 5. 高次脳機能障害として言われている障害をお選びください(複数回答可)。	☐ 記憶障害 ☐ 注意障害 ☐ 遂行機能障害 ☐ 病識欠如 ☐ 失語 ☐ 失認 ☐ 失行 ☐ 易疲労性 ☐ 依存性・退行 ☐ 感情コントロールの低下 ☐ コミュニケーション障害 ☐ 対人拙劣 ☐ 固執性 ☐ 意欲・発動性の低下 ☐ 抑うつ							
問 6. 高次脳機能障害に関して、現在定期的に通院されていますか？	☐ している 機関名 () ☐ していない							
問 7. 定期的な服薬がありますか？	☐ あり 内容 (☐ 抗てんかん薬 ☐ 抗うつ薬 ☐ 抗不安薬 ☐ 抗精神病薬 ☐ 睡眠薬 ☐ その他) ☐ なし							
問 8. 高次脳機能障害に関して現在定期的に相談されている機関はありますか？	☐ あり 機関名 () ☐ なし							
問 9. 障害者手帳はお持ちですか？	☐ 精神障害者保健福祉手帳 ☐ 身体障害者手帳 ☐ 療育手帳 ☐ なし							
問 10. 就学歴をお聞かせください。	【小学校】 通常級・特別支援学級・特別支援学校 卒業・中退・在籍中 () 年生 【中学校】 通常級・特別支援学級・特別支援学校 卒業・中退・在籍中 () 年生 【高校】 普通科・職業科・特別支援学校・定時制・通信制・サポート校 卒業・中退・在籍中 () 年生 【専門学校】 通学・通信制 卒業・中退・在籍中 () 年生 【短期大学】 通学・通信制 卒業・中退・在籍中 () 年生 【大学】 通学・通信制 卒業・中退・在籍中 () 年生 【大学院】 通学・通信制 卒業・中退・在籍中 () 年生							
問 11. 家族状況についてお答えください。	☐ 単身・ ☐ 同居 家系図記入							
問 12. 現在 20 歳以上の方は収入についてお答えください。	☐ 本人に就労報酬がある ☐ 家族の援助を受けている ☐ 公的年金等を受給している（障害年金や保険給付、生活保護等を含む） ☐ その他							

基本情報票 記入上の注意

基本情報票の記入の前に、下記の注意点をお読みください。また、別紙の記入例もご参考ください。なお、基本情報票の結果は、**エクセルデータにてご返送いただきます**。記入後の用紙は事務局で回収致しませんので、各機関で厳重に管理願います。

ご不明な点がございましたら、事務局まで遠慮なくお尋ねください。

項目	注意点
記載者	特に注意点はありません。
記載日	特に注意点はありません。
お名前	データ提出の際には不要です。
ID	各機関で設定してください。できれば数字だけでなく、機関名や県名もご使用ください。
生年月日	特に注意点はありません。
年齢	特に注意点はありません。
性別	特に注意点はありません。
住所	データ提出の際は都道府県名のみ必要です。
問 1	受傷・発症日の確認です。年月より年齢を優先してご記入ください。
問 2	診断日の確認です。年月より年齢を優先してご記入ください。
問 3	支援開始日の確認です。年月より年齢を優先してご記入ください。
問 4	単数回答をお願いします。
問 5	複数回答可能です。
問 6	定期通院されている場合は、機関名をご記入ください。
問 7	服薬がある場合は、内容欄にチェックをお願いします。複数回答可能です。聞き取り時、すぐにチェックができない場合は、用紙の裏面に薬剤名を記入し、後に種別を確認することをお勧め致します。
問 8	定期相談されている場合は、機関名をご記入ください。
問 9	複数回答可能です。尚、療育手帳は厚生労働省（厚生省）の通知に基づき各都道府県知事（政令指定都市の長）が知的障害と判定した者に発行している手帳です。地方公共団体によっては名称が異なりますのでご注意ください（例：青森県…愛護手帳、東京都…愛の手帳、埼玉県…みどりの手帳、さいたま市…みどりの手帳、横浜市…愛の手帳、名古屋市…愛護手帳など）。
問 10	各学校で所属した学級にチェックし、修了状況もチェックしてください。現在在籍中の場合は学年をご記入ください。所属していない学校はチェック不要です。なお、中退は、卒業・修了を待たずに学校をやめている方で、満期退学も含むこととします。
問 11	単身または同居にチェックし、できる範囲で家系図をご記入ください。同居者は○で囲み、データ提出の際には選択肢（配偶者、親、子、兄弟姉妹、祖父母、その他）から同居者を選択していただきます。複数回答可能です。
問 12	経済的基盤の確認です。20 歳未満の方は回答不要です。「その他」の欄は、貯蓄での生活や、同居人からの援助など家族以外からの支援を受けている方を想定しています。複数回答可能です。

【お問い合わせ先】

富山県高次脳機能障害支援センター
（富山県高志リハビリテーション病院内）

TEL：076-438-2233（内 572）

FAX：076-438-7218（直通）

E-mail：koujinou@koshi-rehabili.or.jp

資料 2

①『学童期の集団活動に必要なプログラムの検討に関する調査票』

・調査票（本人用）、（保護者用）、（学校用）

分担研究者：武居光雄

（諏訪の杜病院）

これから みなさんの生活や 学校のことについておききます。
 答えに、「正解」や「まちがい」はありません。また、結果を他の人に教えることはありませんので、
 思ったとおりになんでも答えてください。



問1 授業は楽しいですか？○をつけてください。

1. とても楽しい 楽しい どちらでもない 楽しくない 全く楽しくない

問2 算数(数学)・国語・理科(生活)・社会・英語・体育・音楽・家庭科・技術・美術(図工)・道徳のうち、
 好きな科目は何個ありますか？○をつけてください。

4個以上	2～3個	1個	なし
------	------	----	----

それぞれの科目について教えてください。

1. 国語(現代文、古典)	大好き	好き	どちらでもない	嫌い	大嫌い	授業がない
2. 算数(数学)	大好き	好き	どちらでもない	嫌い	大嫌い	授業がない
3. 理科	大好き	好き	どちらでもない	嫌い	大嫌い	授業がない
4. 社会(地理、歴史、公民)	大好き	好き	どちらでもない	嫌い	大嫌い	授業がない
5. 英語	大好き	好き	どちらでもない	嫌い	大嫌い	授業がない

好きな理由を教えてください。

嫌いな理由を教えてください

問3 学校で悩んだり、迷ったりした時に誰に相談しますか？

1. 家族	よくある	ある	あまりない	なし
2. 学校の先生	よくある	ある	あまりない	なし
3. 友達	よくある	ある	あまりない	なし
4. 病院やリハビリセンターの先生	よくある	ある	あまりない	なし
5. その他	具体的に ()			

問4 遊びや友達のことで、当てはまることはありますか？

1. 友達の話が速すぎてわからない	よくある	ある	あまりない	ない	わからない
2. 友達が言いたいことを忘れてしまう	よくある	ある	あまりない	ない	わからない
3. 怒ったり泣いたりしてしまう	よくある	ある	あまりない	ない	わからない
4. 友達が仲間に誘ってくれない	よくある	ある	あまりない	ない	わからない
5. 兄弟や友達とよくけんかする	よくある	ある	あまりない	ない	わからない
6. ゲームなど順番やルールを守れず怒られる	よくある	ある	あまりない	ない	わからない

問5 以下の活動について「好き」「どちらでもない」「嫌い」から一つ選んで○をつけて下さい。
 さらに、その活動は誰と一緒にすることが多いですか？「友達」「家族」「一人」から一つ選んで
 ○をつけて下さい。当てはまらない場合は○をつけなくても構いません。

1. クラブ活動	好き	どちらでもない	嫌い	友達	家族	一人
2. 体を動かす	好き	どちらでもない	嫌い	友達	家族	一人
3. 本を読む	好き	どちらでもない	嫌い	友達	家族	一人
4. マンガを読む	好き	どちらでもない	嫌い	友達	家族	一人
5. ゲームをする	好き	どちらでもない	嫌い	友達	家族	一人
6. 習い事をする	好き	どちらでもない	嫌い	友達	家族	一人
7. テレビを観る	好き	どちらでもない	嫌い	友達	家族	一人
8. 音楽をきく	好き	どちらでもない	嫌い	友達	家族	一人
9. 買い物	好き	どちらでもない	嫌い	友達	家族	一人

問6 部活動や習い事をしている人にお聞きします。
以下の困りごとは、どれくらいの頻度でありますか？

1. すぐに疲れる	よくある	ある	あまりない	ない	わからない
2. 練習がきつくて大変	よくある	ある	あまりない	ない	わからない
3. 顧問の先生に怒られる	よくある	ある	あまりない	ない	わからない
4. 用具を忘れる	よくある	ある	あまりない	ない	わからない
5. 規則やルールを間違える	よくある	ある	あまりない	ない	わからない
6. イライラして怒りっぽくなる	よくある	ある	あまりない	ない	わからない

問7 今学校生活や社会生活で、あなたが困っていることはありますか？

ある	ない	わからない
----	----	-------

問8 困っていることを解決するために工夫していることはありますか？

ある	ない	わからない
ある場合、困っていることは何ですか？		
自分で解決のために工夫したことを教えてください。		

問9 将来の目標や夢はありますか？

ある	ない	わからない
ある場合、それは何か教えてください（どんなことでもかまいません）。		
また、それに向けて何か頑張っていることがあれば、教えてください。		

ありがとうございました。

学童期・青年期における支援の在り方について アンケート【保護者用】

このアンケートは、お子様の日常生活や集団活動についての実態を調査するためのものです。お子様の普段の様子について記入をお願いします。

1. 日常生活の場において、当てはまる項目に○を付けてください。

すぐに姿勢が悪くなったり、寝転がったりする	よくある	ときどきある	ない
学校に行く準備ができない	よくある	ときどきある	ない
片付けができない	よくある	ときどきある	ない
約束したことが守れない、また覚えていないことがある	よくある	ときどきある	ない
急に怒ったり、泣き出すことがある	よくある	ときどきある	ない
会話中、急に会話が途切れることがある	よくある	ときどきある	ない
場の雰囲気合った話ができていないことがある	よくある	ときどきある	ない
周囲とうまくなじめないと感じることがある	よくある	ときどきある	ない
集団活動のとき、自分の思い通りになるまで主張することがある	よくある	ときどきある	ない

2. 1の質問以外で、日常生活や集団活動の中で何か困ったこと、困っていることはありますか？

具 体 的 内 容	すみ分け
	記憶障害
	注意障害
	遂行機能障害
	社会的行動障害
	身体障害
	学力低下
	その他

3. 質問1及び2で上げて頂いた困りごとのうち、対処方法を工夫して改善したり、解決したことがあれば教えてください。

改善・解決したこと：

工夫内容：

4. 手帳を取得されている方にお尋ねします。手帳を取得して役に立ったことはありますか？

とても役立った→◎ まあまあ役立った→○ あまり役立たなかった→△ 申請していない→×

() 身体障害者手帳 () 精神保健福祉手帳 () 療育手帳

5. その他、医療・福祉サービスなど、受けた支援に対する感想を教えてください。

とても役立った→◎ まあまあ役立った→○ あまり役立たなかった→△ 受けたことがない→×

() 外来リハ () 放課後等デイサービス () 障害児入所施設 () 居宅介護(ホームヘルプ)
 () 移動支援事業 () 日常生活用具給付等事業 () 特別支援教育 () 家族会
 () グループ訓練 () 集団学習 () 学童保育 () 学校の先生の対応
 () その他サービス : _____

6. 支援を受けて良かった内容を教えてください。

7. 他にあったら良かった、あるいはあったら良いと思う支援内容とその理由を教えてください。

8. 今後、将来的に不安なことがあれば教えてください。

病気や交通事故の後遺症として高次脳機能障害が残存したお子さんは、学校生活が今までのように営めない自分の突然の変化に混乱しています。また、周りのお子さんたちの成長から置いて行かれてしまった時、「良くなっていない」のではなく「どんどん悪くなっていく」自分に出会って悩みます。
このアンケートは、こうしたお子さんたちを受け入れておられる学校の先生方に、支援の現状についてお尋ねするものです。

(1) 担当されている学級の状況を教えてください

①クラスの人数を教えてください

_____人

②クラスの担任の人数を教えてください

_____人

③クラス内に介助員は入っていますか

入っている () _____人 入っていない ()

④(入っていると答えた場合) 介助内容に限定がありますか

ある () _____ ない ()

(2) 高次脳機能障害について聞いたことがありますか

ある () ない ()

①これまでに高次脳機能障害に関する研修会に参加したことがありますか

ある () ない ()

②高次脳機能障害の児童・生徒を担当したのは、今回が初めてですか

初めて () ある () 担当歴_____人

③担当されている児童・生徒の高次脳機能障害について説明を受けたことがありますか

ある () ない ()

④担当されている児童・生徒は支援が必要であると思った行動を起こしたことがありますか

毎日ある () 週に5日以上 () 週に3日以上 () 週に1日以上 () 全くない ()

⑤担当されている児童・生徒から相談されたことがありますか

毎日ある () 週に5日以上 () 週に3日以上 () 週に1日以上 () 全くない ()

相談を受けた場合、具体的内容を記載してください

⑥高次脳機能障害に関する情報を必要としていますか

大いに必要 () 必要 () 必要ない () 他の障害を優先している ()

(3) 保護者や児童と十分なコミュニケーションが取れていますか

よく取れている () 取れている () あまり取れていない () 取れていない ()

児童・生徒の対応方法についてお尋ねします

(4) 学校生活において困ったことはありましたか

場面		具体的な内容を教えてください	どのような支援を行いましたか どのように支援したいと考えますか
休み時間の 過ごし方	☐ よく困る ☐ 時々困る ☐ たまに困る ☐ 全く困らない		
集団活動 (集会や行事、 部活動、 委員会活動)	☐ よく困る ☐ 時々困る ☐ たまに困る ☐ 全く困らない		
授業中の 態度	☐ よく困る ☐ 時々困る ☐ たまに困る ☐ 全く困らない		

(5) 教科学習について教えてください(該当しない場合は記入されなくてかまいません)

国語	よく理解している ☐	概ね理解している ☐	ふつう ☐	あまり理解していない ☐	全く理解できていない ☐
算数	よく理解している ☐	概ね理解している ☐	ふつう ☐	あまり理解していない ☐	全く理解できていない ☐
理科	よく理解している ☐	概ね理解している ☐	ふつう ☐	あまり理解していない ☐	全く理解できていない ☐
社会	よく理解している ☐	概ね理解している ☐	ふつう ☐	あまり理解していない ☐	全く理解できていない ☐
英語	よく理解している ☐	概ね理解している ☐	ふつう ☐	あまり理解していない ☐	全く理解できていない ☐

(6) 児童・生徒について共通理解を高めるために、何をされていますか

項目	頻度			必要性
家族との情報交換（保護者面談）	ある（ ） （週・月・年） 回	ない（ ）	必要だと思う（ ） どちらとも言えない（ ） 必要とは思わない（ ）	
校内の教職員間での情報交換 （校内支援会議など）	ある（ ） （週・月・年） 回	ない（ ）	必要だと思う（ ） どちらとも言えない（ ） 必要とは思わない（ ）	
児童・生徒との面談	ある（ ） （週・月・年） 回	ない（ ）	必要だと思う（ ） どちらとも言えない（ ） 必要とは思わない（ ）	
医療機関や福祉サービスとの情報交換	ある（ ） （ ） 担当者会議（週・月・年） 回 （ ） 面談（週・月・年） 回 （ ） 紙面上（週・月・年） 回	ない（ ）	必要だと思う（ ） どちらとも言えない（ ） 必要とは思わない（ ）	
その他（ ）				

(7) その他、医療機関に求めていることがあれば何でもお書き下さい

ご協力ありがとうございました

②『医療機関と教育機関の支援の連携についての検討に関する調査票』

- ・復学に関する調査票（保護者用）
- ・調査への協力をお願い
- ・同意書
- ・同意撤回書

分担研究者：栗原まな

(神奈川県総合リハビリテーションセンター)

復学に関する調査票(保護者用)

お子様の受傷・発症後の復学に際し、医療機関と学校や教育関係者との関係についてお尋ねします

- * 調査項目中、【進路】とあるのは、学年が変わる、小学校から中学校、中学校から高等学校、高等学校から大学・専門学校・就職や就労訓練等の機関等など全てを含んでいます。
【進学】という場合は、進路のうち小学校から中学校、中学校から高等学校、高等学校から大学・専門学校などを選択する場合に限定して使っています。

A:復学先に関する調査

問1 発症時の学校・学年を教えてください。

- ☐公立学校通常級 ☐私立学校通常級 ☐特別支援級 ☐特別支援学校
☐小学校 ☐中学校 ☐高等学校(☐留年せず ☐留年した)
☐ () 年生 ☐ 退学

問2 復学した時の学年を教えてください。

- ☐小学校 ☐中学校 ☐高等学校
☐ () 年生

問3 復学した学校・学級を教えてください。

- ☐公立学校通常級 ☐私立学校通常級 ☐特別支援級 ☐特別支援学校
☐高等学校(☐公立普通科 ☐公立職業科 ☐私立普通科 ☐定時制高校
☐通信制高校 ☐サポート校 ☐特別支援学校 ☐在宅)
☐その他()

問4 復学先を決めた理由を教えてください。(複数回答可)

- ☐本人の希望 ☐家族の考え ☐教育関係者に勧められて
☐医療関係者に勧められて ☐その他の関係者に勧められて
☐その他()

問5 復学先に際しての不安がありましたか？不安があった場合どんな不安でしたか？(複数回答可)

- ☐あった
☐身体的問題 ☐学力 ☐友達関係 ☐担任教諭の障害に関する理解
☐学校全体の受け入れ態勢
☐その他()
☐なかった

問6 復学について相談できる人がいましたか？ それは誰でしたか？

- ☐いた ☐いなかった
☐家族 ☐病院関係者 ☐学級担任 ☐教育相談の専門機関 ☐当時脳機能障害の専門機関
☐当事者・家族の会
☐その他（ ）

問7 復学までに医療および機関・療育支援を受けた機関はどこですか？

急性期治療をした病院(急性期治療)、回復期リハ治療をした病院(回復期リハ治療)、小児療育施設別に経過をお聞きます

- ☐急性期治療のみ
☐急性期治療→回復期リハ治療
☐急性期治療→回復期リハ治療→小児療育施設
☐その他（ ）

問8 退院時に病院から得た情報は何か？(複数回答可)

- ☐高次脳機能障害の診断 ☐認知機能の障害の具体的説明
☐認知機能のリハビリを行う機関の紹介
☐認知機能の障害と関係する日常生活場面での注意事項
☐学校生活に関する注意事項・相談機関の紹介
☐復学先の学校との連絡調整
☐その他（ ）

問9 退院後に高次脳機能障害に関するリハビリを受けましたか？

- ☐受けた ☐受けなかった

受けたきっかけは何か？(複数回答可)

- ☐急性期治療を受けた病院で退院時に勧められた ☐家族が調べて探した
☐復学先の学校から勧められた ☐地域の相談機関で勧められた
☐その他（ ）

受けなかった理由は何ですか？(複数回答可)

- ☐急性期治療を受けた病院で何も言われなかった
☐必要と思われる問題がなかった
☐何となくおかしいと思ったがどこに相談すればいいか分からなかった
☐必要だと思ったが通える範囲で適切な機関がなかった
☐復学先の学校で十分対応してもらったので必要なかった
☐その他（ ）

C: 復学時の医療機関と学校の連携

問10 復学時に医療機関と学校で連携会議を行いましたか？

☐ 行った ☐ 行わなかった

連携会議を行わなかった理由を教えてください。(複数回答可)

- ☐ 特に開く必要がなかった ☐ 学校にあえて知らせたくなかった、
☐ 家族が説明するつもりだった ☐ 偏見の目で見られたくなかった
☐ 本人が拒否したため ☐ 誰から必要だといわれなかった
☐ 知らなかった
☐ 必要だと思ったが医療機関が応えてくれなかった
☐ 必要だと思ったが学校が受けってくれなかった
☐ その他()

連携会議を行った理由を教えてください。(複数回答可)

- ☐ 医療機関から勧められた ☐ 学校から勧められた ☐ 家族から依頼した
☐ 地域の相談機関から勧められた ☐ 当事者家族会の人に勧められた
☐ その他()

D: 復学後のこと

問11 復学時前籍学級に戻った方にお尋ねします。復学後に問題がありましたか？(複数回答可)

- ☐ 特に問題はなかった ☐ 問題があったが担任がいろいろ配慮してくれた
☐ 学力が追いつかず苦勞した ☐ 宿題がこなせず苦勞した
☐ 友達関係に悩んだ ☐ 疲れるのか辛そうだった
☐ ストレスからか家族に当たることが増えた
☐ 学校に行きたがらなくなった ☐ 周りから苦情をいわれることがあった
☐ その他()

問12 復学後の進路について(複数回答可)

- ☐ 進路変更していない
☐ 進路変更を考えたことはない ☐ 進路変更を考えたが本人が拒否した
☐ 転籍・転校先を考えたが本人に合うところがなかった
☐ その他()

☐ 進路変更した

- ☐ 親が転校・転籍した方がいいと思った、
☐ 本人が転校・転籍を希望した
☐ 学校から転籍・転校を勧められた
☐ 進学を諦めた
☐ 高次脳機能障害支援の専門機関で相談して勧められた
☐ その他()

問13 進路を変更した理由はなんですか？(複数回答可)

- ☐学力的についていけなかった ☐友達関係がうまくいかなかった
☐体力的にもたなかった ☐担任や学校関係者の理解がなかった
☐復学先の学校に登校できなくなった ☐ストレスから来る問題が出てきた
☐その他()

問14 転校・転籍をした方へ。新たに選択した進路を教えてください。

- ☐公立学校通常級 ☐私立学校通常級 ☐特別支援級 ☐特別支援学校
☐公立高校普通科 ☐公立高校職業科 ☐私立高校普通科
☐定時制高校 ☐通信制高校 ☐サポート校 ☐特別支援学校

問15 復学後学校の支援に対して良かったと思うことについて、選んで下さい。(複数回答可)

- 他の教員との情報共有 □学校と家庭の連携 □学習環境整備 □友人関係の調整
□学習内容の工夫 □個別相談・対応 □校内設備等の整備 □その他()

問16 今後学校生活に期待することを選んで下さい。(複数回答可)

- ☐他の教員との情報共有 ☐学校と家庭の連携 ☐学習環境整備 ☐友人関係の調整
☐学習内容の工夫 ☐個別相談・対応 ☐校内設備等の整備
☐その他()

問17 これまでの医療機関での支援についての満足度をお尋ねします。

- ☐
- 大いに満足、
- ☐
- やや満足、
- ☐
- どちらともいえない、
- ☐
- やや不満、
- ☐
- 大いに不満

その他医療機関への家族の不満、考え、希望などがありましたら自由にお書きください。

問18 これまでの教育機関での支援についての満足度をお尋ねします。

- ☐
- 大いに満足
- ☐
- やや満足
- ☐
- どちらともいえない
- ☐
- やや不満
- ☐
- 大いに不満

教育への家族の不満、考え、希望などがありましたら自由にお書きください。

調査への協力をお願い

■ 調査名 「医療機関と教育機関の支援の連携の為の調査」

神奈川リハビリテーション病院では、別紙、「総合的な研究計画」の研究の背景と目的にあります。高次脳機能障害を有する児童生徒の復学に際して、当事者を取り巻く家族、医療、教育の支援の連携の実態、問題点を明らかにし、これからの3者の連携体制の構築に向けて役立てることを目的にアンケート調査を実施することになりました。

つきましては、研究の趣旨をご理解いただき、アンケート調査のご協力をお願い致します。

■ 調査の方法

<対象> 2015年3月31日現在、満18歳未満で、高次脳機能障害児者のご家族。

<方法>

- 1) ご家族に「調査への協力をお願い」を用いて調査の説明を行い、調査への協力をお願いします。同意していただける場合には「同意書」のご記入いただきます。
- 2) おいでいただくことが困難な場合には、電話でご了解をいただいた上で「調査への協力をお願い」「同意書」「同意撤回書」を郵送し、その後再度電話で説明を行い、協力の同意が得られた場合には「同意書」を返送していただきます。
- 3) 当事者の生年月日、疾患名など基本的な情報、および調査票項目の内診療録から転記できる項目はあらかじめ転記しておきます。
- 4) その後、都合のよいお時間に、電話にて、調査票項目の内容について、ご家族より聞き取り調査を行います。およその内容は後掲の通りで、所要時間は15～30分の予定です。(面接の場合は同意に引き続き聞き取らせていただくこともあります)
- 5) 調査に同意されない場合、および同意後同意を撤回された場合には、調査の対象から除外させていただきます。

<結果の分析> 個人が特定できないよう集計処理します。

<成果の活用> 事業報告書・研修会・研究会・学会などで発表します

■ 同意と撤回の自由について

この調査の協力に同意しないこと、あるいは同意後に撤回することにより、不利益を受けることはありません。同意後に撤回したい場合は、同意撤回書を問合せ先に郵送していただくか、高次脳機能障害支援センタースタッフの誰でもよいのでその旨伝えて下さい。

■ 研究のお問合せ先

〒243-0121 厚木市七沢5 1 6

神奈川リハビリテーション病院

電話：046-249-2502(内線 4018) メール：manakurihira@mubbiglobe.ne.jp

小児科部長 栗原 まな

総合的な研究計画

今回の調査は、以下の研究の中で分担して実施するものです。

一般社団法人日本損害保険協会自賠責運用益拠出事業

研究課題：学童期・青年期にある高次脳機能障害者に対する総合的な支援に関する研究

研究代表者：富山県高志リハビリテーション病院 野村忠雄

■ 研究の背景と目的

成人期に発症した高次脳機能障害の人たちの地域生活や就労に関する支援に比べ、小児期に発症した高次脳機能障害児・者(以下、小児期発症者)に対する支援は遅れており、全国的に見るとようやくその端緒についたところです。

小児期発症者の社会復帰先は、多くの場合、教育の場である学校であり、復帰先の場合が当初からあることで「小児は成人期発症者よりも恵まれている」と誤解されることが多いのですが、現実には、十分なリハビリ期間と支援体制が取れないまま復学せざるを得ずむしろ厳しい環境に置かれています。また、小児期の脳は可塑性に富み回復力があり、小児期発症の高次脳機能障害者の予後は比較的良いとされていますが、対象者本人の回復速度を遥に凌駕する速さで、他の子どもたちは成長します。同学年の子どもたちと能力の差は徐々に目立つようになり、適切な対応がなされなければ落ちこぼれていくといった現象が起きることが稀ではありません。また、教育終了後も、社会的な人間関係の取り方を体験的に学ぶ機会がないまま就労するため、職場での適応が難しく転職を繰り返したり、非現実的な職業選択希望を持ち続けて居場所を無くしたりするなど、成人期発症者とは異なる難しい問題が存在します。さらに、小児期発症者の家族が考える問題も、成人発症者や発達障害児の家族と異なります。

こうした小児期発症者を取り巻く環境に対し、小児期から成人期にいたる長いライフスパンをその人らしく過ごせる支援方法について、医学・教育・就労・家庭からの多角的な、総合的な支援モデルの作成を目指し、今年度から3年度にわたり、以下のように全国5県の支援拠点機関が協力して研究をすることになりました。研究項目と分担は以下の通りです。

- | | |
|----------------------------|---------------|
| 1. 学童期の集団活動に必要なプログラムの検討 | →諏訪の杜病院(大分県) |
| 2. 医療機関と教育機関の支援の連携についての検討 | →神奈川県総合リハセンター |
| 3. 小児高次脳機能障害者の家族支援プログラムの検討 | →聖隷三方原病院(静岡県) |
| 4. 青年期における社会適応活動支援プログラムの検討 | →千葉県千葉リハセンター |
| 5. 青年期におけると就労定着支援システムの検討 | →富山県高志リハ病院 |

今回の調査内容について

- 1) お子さんの通学された学校やそこで受けた教育的な配慮の有無とその内容
- 2) 発症後どの学校に通うかなど進路についての希望のお子さんとのズレの有無
- 3) 専門学校・短大・大学に通学したか通学中のお子さんについて、障害の開示の状況など
- 4) 在学中に学校から得られた就職についての情報や支援の有無とその内容
- 5) 在学中に学校以外の就労支援機関の利用の有無とその支援機関名
- 6) 就職に向けてご家族がどのように関わられている(いた)かについて

なお、調査はインタビューさせていただき聞き取りで行いますが、回答の選択肢が用意してありますので、代表的な選択肢を別紙で用意させていただきましたので、ご覧ください。

何卒よろしくご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします

同 意 書

神奈川県リハビリテーション病院 小児科部長様

〔調査名〕「医療機関と教育機関の支援の連携の検討」のための基礎的調査

上記調査の協力にあたり、_____より説明文書を用いて説明を受け、以下の項目について十分理解しましたので、実施する調査に協力し、そこから得られるデータの使用について同意します。

.....

説明を受けて理解した項目の□の中にレ印をつけてください

- ☐ 研究の目的と方法を理解しました。
 - ☐ プライバシーが保護されることを理解しました。
 - ☐ 研究成果の公表では、個人を特定できる情報は公開されないことを理解しました。
 - ☐ 研究途中でいつでも協力を撤回することができることを理解しました。
 - ☐ 撤回したいときには、同意撤回書を用いることを理解しました。
 - ☐ 協力に同意しないことや協力を撤回することで不利益を受けないことを理解しました。
-

平成 年 月 日

研究協力者 氏 名

住 所

同 意 撤 回 書

神奈川県リハビリテーション病院 小児科部長様

〔調査名〕「医療機関と教育機関の支援の連携の検討」のための基礎的調査

上記調査に協力するにあたり、研究責任者から説明を受け、十分理解し同意しましたが、自由意思による協力の中止も自由であることから、この調査協力への同意を撤回したく、ここに同意撤回書を提出します。

お子様のお名前： _____

保護者署名： _____

署名年月日： _____年 _____月 _____日

本調査の協力に関する同意は撤回されたことを確認します。

研究責任者氏名 _____

③『小児高次脳機能障害者の家族支援プログラムの検討に関する調査票』

- ・ 調査票①－ 1、 2、 3
 - ②－ 1
 - ②－ 2 (本人用)、(保護者用)
 - ③－ 1 (本人用)、(保護者用)
 - ③－ 2 (本人用)、(保護者用)
- ・ 記入上の注意
- ・ 調査協力依頼
- ・ 同意書
- ・ 同意撤回書

分担研究者：片桐伯真

(聖隷三方原病院)

★調査票①－１ 発症前後の変化について （本人用：小学生向け）

病気やけがをする前と後のあなたの変化についてお聞きします。

「友達とのこと」「学校のこと」「家族とのこと」「学校以外の過ごし方」の説明を読んで、自分に一番近いと思うところに、どれか一つ印をつけてください。

1) 病気やけがをする前のあなたについて教えてください	
友達とのこと	☐ 友達はたくさんいた ☐ 友達はまあまあいた ☐ 友だちと遊びたいとは思わなかった
学校のこと	☐ 学校の成績はよかった ☐ 学校の成績はまあまあよかった ☐ 学校の成績は普通だった ☐ 学校の成績はあまりよくなかった
家族とのこと	☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことをよく話していた ☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことを時々話していた ☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことを聞かれれば話していた ☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことを聞かれてもあまり話さなかった
学校以外の過ごし方	※学校の勉強以外で、あなたが取り組んだものはありますか。 あるときにはその内容を答えてください。（例 ピアノ、水泳、サッカー ）
	☐ 自分でやりたくてやっていた ☐ 親や周りの人にすすめられて、やっていた ☐ 何もしていなかった ☐ 長く続いていた ☐ 途中でやめた

2) ^{いま} 今のあなたについて ^{おし} 教えてください	
友達 との こと	☐ ^{ともだち} 友達はたくさんいる ☐ ^{ともだち} 友達はまあまあいる ☐ ^{とも} 友だちと ^{あそ} 遊びたいとは思わない
学校 の こと	☐ ^{がっこう} 学校の ^{せいせき} 成績はよい ☐ ^{がっこう} 学校の ^{せいせき} 成績はまあまあよい ☐ ^{がっこう} 学校の ^{せいせき} 成績は普通 ☐ ^{がっこう} 学校の ^{せいせき} 成績はあまりよくない
家族 との こと	☐ ^{おや} 親や ^{きょうだい} 兄弟（ ^{しまい} 姉妹）と、 ^{がっこう} 学校であったことをよく ^{はな} 話している ☐ ^{おや} 親や ^{きょうだい} 兄弟（ ^{しまい} 姉妹）と、 ^{がっこう} 学校であったことを時々 ^{はな} 話している ☐ ^{おや} 親や ^{きょうだい} 兄弟（ ^{しまい} 姉妹）と、 ^{がっこう} 学校であったことを聞かれれば ^{はな} 話している ☐ ^{おや} 親や ^{きょうだい} 兄弟（ ^{しまい} 姉妹）と、 ^{がっこう} 学校であったことを聞かれてもあまり ^{はな} 話さない
学校 以外 の 過 ご し 方	※^{がっこう}学校の勉強以外で、あなたが^と取り組んでいるものはありますか。 あるときにはその^{ないよう}内容を^{こた}答えてください。（例 ^{れい}ピアノ、^{すいえい}水泳、サッカー ） ☐ ^{じぶん} 自分でやりたくてやっている ☐ ^{おや} 親や ^{まわ} 周りの ^{ひと} 人にすすめられて、やっている ☐ ^{なに} 何もしていない
	☐ ^{なが} 長く ^{つづ} 続いている ☐ ^{とちゅう} 途中でやめた

3) ^{びょうき} 病気やけがをする ^{まえ} 前と ^{あと} 後で ^{せいかく} 性格は ^か 変わりましたか？
☐ ^か すぐ変わった ☐ ^{すこ} 少し ^か 変わった ☐ ^か 変わっていない ☐ わからない
※ 「すぐ^か変わった」「少し^{すこ}変わった」に印をつけた方に質問です どう^か変わったのか^か書いてください

★調査票①－２ 発症前後の変化について （本人用：中高生向け）

病気やけがをする前と後のあなたの変化についてお聞きします。

「友達とのこと」「学校のこと」「家族とのこと」「学校以外の過ごし方」の説明を読んで、自分に一番近いと思うところに、どれか一つ印をつけてください。

	1) 受傷／発病前のあなたについてお聞きします
友達とのこと	☐ 友達はたくさんいた ☐ 友達はまあまあいた ☐ 友だちと遊びたいとは思わなかった
学校のこと	☐ 学校の成績はよかった ☐ 学校の成績はまあまあよかった ☐ 学校の成績は普通だった ☐ 学校の成績はあまりよくなかった
家族とのこと	☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことをよく話していた ☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことを時々話していた ☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことを聞かれれば話していた ☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことを聞かれてもあまり話さなかった
学校以外の過ごし方	※学校の勉強以外で、あなたが取り組んだものはありますか。 あるときにはその内容を答えてください。（例 ピアノ、水泳、サッカー ） ☐ 自分でやりたくてやっていた ☐ 親や周りの人にすすめられて、やっていた ☐ 何もしていなかった
	☐ 長く続いていた ☐ 途中でやめた

2) 今のあなたについてお聞きします	
友達とのこと	☐ 友達はたくさんいる ☐ 友達はまあまあいる ☐ 友だちと遊びたいとは思わない
学校のこと	☐ 学校の成績はよい ☐ 学校の成績はまあまあよい ☐ 学校の成績は普通 ☐ 学校の成績はあまりよくない
家族とのこと	☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことをよく話している ☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことを時々話している ☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことを聞かれれば話している ☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことを聞かれてもあまり話さない
学校以外の過ごし方	※学校の勉強以外で、あなたが取り組んでいるものはありますか。 あるときにはその内容を答えてください。（例 ピアノ、水泳、サッカー ） ☐ 自分でやりたくてやっている ☐ 親や周りの人にすすめられて、やっている ☐ 何もしていない
	☐ 長く続けている ☐ 途中でやめた

3) 受傷／発症前後で性格は変わりましたか？
☐ すごく変わった ☐ 少し変わった ☐ 変わっていない ☐ 分からない
※ 「すごく変わった」「少し変わった」に印をつけた方に質問です 受傷／発症前後での変化や違いについて具体的に記入して下さい

★調査票①－３ 発症前後の変化について （保護者用：小学生／中高生共通）

病気や怪我をする前と後のお子様の変化についてお聞きます。

「友達とのこと」「学校のこと」「家族とのこと」「学校以外の過ごし方」の説明を読んで、お子様の様子に一番近いと思うところに、一つ印をつけてください。

	1) 受傷／発病前のあなたについてお聞きます
友達とのこと	☐ 友達はたくさんいた ☐ 友達はまあまあいた ☐ 友だちと遊びたいとは思わなかった
学校のこと	☐ 学校の成績はよかった ☐ 学校の成績はまあまあよかった ☐ 学校の成績は普通だった ☐ 学校の成績はあまりよくなかった
家族とのこと	☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことをよく話していた ☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことを時々話していた ☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことを聞かれれば話していた ☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことを聞かれてもあまり話さなかった
学校以外の過ごし方	※学校の勉強以外で、あなたが取り組んだものはありますか。 あるときにはその内容を答えてください。（例 ピアノ、水泳、サッカー ）
	☐ 自分でやりたくてやっていた ☐ 親や周りの人にすすめられて、やっていた ☐ 何もしていなかった ☐ 長く続いていた ☐ 途中でやめた

2) 今のあなたについてお聞きします	
友達とのこと	☐ 友達はたくさんいる ☐ 友達はまあまあいる ☐ 友だちと遊びたいとは思わない
学校のこと	☐ 学校の成績はよい ☐ 学校の成績はまあまあよい ☐ 学校の成績は普通 ☐ 学校の成績はあまりよくない
家族とのこと	☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことをよく話している ☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことを時々話している ☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことを聞かれれば話している ☐ 親や兄弟（姉妹）と、学校であったことを聞かれてもあまり話さない
学校以外の過ごし方	※学校の勉強以外で、あなたが取り組んでいるものはありますか。 あるときにはその内容を答えてください。（例 ピアノ、水泳、サッカー ） ☐ 自分でやりたくてやっている ☐ 親や周りの人にすすめられて、やっている ☐ 何もしていない
	☐ 長く続けている ☐ 途中でやめた

3) 受傷／発症前後で性格は変わりましたか？	
※お子様の現在の性格傾向についてお聞きします。どちらか傾向の強い方に印を付けて下さい。	
1	☐ 楽観的 ☐ 悲観的 2 ☐ 神経質 ☐ 大胆 3 ☐ 積極的・外交的 ☐ 消極的・内向的 4 ☐ マイペース ☐ 周囲に合わせる 5 ☐ 自分に甘い ☐ 自分に厳しい
☐ すごく変わった ☐ 少し変わった ☐ 変わっていない ☐ 分からない	
※「すごく変わった」「少し変わった」に印をつけた方に質問です。 受傷／発症前後での変化や違いについて具体的に記入して下さい。 	

★調査票②－１ 基礎能力について （本人用：小学生向け）

あなたのいつもの行動についてお聞きします。自分で考えて答えてください。

次の①～⑧の質問について、下の説明を読んで

あなたに一番近いと思うところに、一つ印をつけてください。

① 自分の気持ちや考えを伝えるときについて
「ほかの人が使っているものを借りたいときに・・・」 ☐ 自分で伝えることができる ☐ 誰かに頼んで代わりに言ってもらう ☐ 考えていると、親や周りの人が代わりに言っている ☐ 考えなくても、親や周りの人が先に言ってくれる
② ほかの人の気持ちについて
「怒っていたり、泣いていたたりする友達や兄弟を見て・・・」 ☐ 言葉はなくても顔をみれば、ほかの人の気持ちがわかる ☐ 言葉ではっきり言われると、ほかの人の気持ちがわかる ☐ 言葉で言われても、ほかの人の気持ちはわからない
③ ほかの人の気持ちに合わせた行動について
「嫌がっていると感じたら・・・」 ☐ どうしてほしいのかを考えて行動できる ☐ こうしてほしいと言われると、その通りの行動ができる ☐ こうしてほしいと言われても、その通りの行動ができない ☐ ほかの人の気持ちに合わせる必要はない
④ 誰かとけんかしたときについて
「友達や兄弟とのけんかで・・・」 ☐ キレたくなるけど、がまんしたり、その場から離れる ☐ キレないようにしているが、がまんできなくてキレてしまう ☐ キレることがあるが、相手も悪いから仕方ない ☐ 自分はキレたりしない

⑤ マナーについて

「おもちゃや遊具^{ゆうぐ}を独り占め^{ひとじ}している子がいたら・・・」

- ☐ すぐに注意^{ちゅうい}する
- ☐ 注意^{ちゅうい}するときと、しないときがある
- ☐ 家族^{かぞく}や先生^{せんせい}に伝える^{つた}
- ☐ 何も^{なに}もしない

⑥ 自分^{じぶん}で行動^{こうどう}を決めるときについて

「宿題^{しゅくだい}は・・・」

- ☐ 一人^{ひとり}でできる
- ☐ わからない時^{とき}は、家族^{かぞく}や先生^{せんせい}に相談^{そうだん}する
- ☐ 親^{おや}に言われれば、仕方^{しかた}がないから宿題^{しゅくだい}をする
- ☐ どうすればいいのかわからないので、何も^{なに}もしない

⑦ 時間^{じかん}を守る^{まも}ることについて

「学校^{がっこう}に行く時間^いは・・・」

- ☐ 学校^{がっこう}に行く時間^いに間^まに合うように支度^{したく}ができる
- ☐ 学校^{がっこう}に行く時間^いに間^まに合うように支度^{したく}をするが、間^まに合わないことがある
- ☐ どうしたらよいのかわからないので、親^{おや}に言われたとおりに支度^{したく}する
- ☐ なぜか間^まに合わないことが多い

⑧ 困^{こま}ったときについて

「道^{みち}に迷^{まよ}ったり、大事^{だいじ}な物^{もの}をなくしたら・・・」

- ☐ 自分^{じぶん}でなんとかすることができる
- ☐ 家族^{かぞく}に連絡^{れんらく}する
- ☐ 周り^{まわ}の人^{ひと}にきく
- ☐ どうしていいのかわからない
- ☐ 今まで^{いま}で一度^{いちど}もないのでわからない

★調査票②－１ 基礎能力について （保護者用：小学生向け）

お子様の普段の行動についてお聞きます。

次の①～⑧の質問について、下の説明を読んで、
お子様の様子に一番近いと思うところに、一つ印をつけて下さい。

① 自分の気持ちや考えを伝えるときについて
「ほかの人が使っているものを借りたいときに・・・」 ☐ 自分で伝えることができる ☐ 誰かに頼んで代わりに言ってもらう ☐ 考えていると、親や周りの人が代わりに言っている ☐ 考えなくても、親や周りの人が先に言ってくれる
② ほかの人の気持ちについて
「怒っていたり、泣いていたる友達や兄弟を見て・・・」 ☐ 言葉はなくても顔をみれば、ほかの人の気持ちがわかる ☐ 言葉ではっきり言われると、ほかの人の気持ちがわかる ☐ 言葉で言われても、ほかの人の気持ちはわからない
③ ほかの人の気持ちに合わせた行動について
「嫌がっていると感じたら・・・」 ☐ どうしてほしいのかを考えて行動できる ☐ こうしてほしいと言われると、その通りの行動ができる ☐ こうしてほしいと言われても、その通りの行動ができない ☐ ほかの人の気持ちに合わせようとしない
④ 誰かとけんかしたときについて
「友達や兄弟とのけんかで・・・」 ☐ キレたくなるけど、がまんしたり、その場から離れる ☐ キレないようにしているが、がまんできなくてキレてしまう ☐ キレることがあるが、相手も悪いから仕方ない ☐ 自分はキレたりしない

⑤ マナーについて

「おもちゃや遊具を独り占めしている子がいたら・・・」

- ☐ すぐに注意する
- ☐ 注意するときと、しないときがある
- ☐ 家族や先生に伝える
- ☐ 何もしない

⑥ 自分で行動を決めるときについて

「宿題は・・・」

- ☐ 一人でできる
- ☐ わからない時は、家族や先生に相談する
- ☐ 親に言われたように行動する
- ☐ どうすればいいのかわからないので、何もしない

⑦ 時間を守ることにについて

「学校に行く時間は・・・」

- ☐ 学校に行く時間に間に合うように支度ができる
- ☐ 学校に行く時間に間に合うように支度をするが、間に合わないことがある
- ☐ どうしたらよいのかわからないので、親に言われたとおりに支度する
- ☐ なぜか間に合わないことが多い

⑧ 困ったときについて

「道に迷ったり、大事な物をなくしたら・・・」

- ☐ 自分でなんとかすることができる
- ☐ 家族に連絡する
- ☐ 周りの人にきく
- ☐ どうしていいのかわからない
- ☐ 今まで一度もないのでわからない

★調査票②－２ 基礎能力について （本人用：中高生向け）

あなたの普段の行動についてお聞きします。

次の①～⑩の質問について、下の説明を読んで、
あなたに一番近いと思うところに、一つ印をつけて下さい。

① 意思（自分の気持ちや考え）を表示する場面について
「やりたいことや行きたい場所について・・・」 ☐ なんとか自分で工夫して伝えることができる ☐ 困ったときは誰かに代わりに言ってもらう ☐ 考えているうちに親や周りの人が代わりに言っている ☐ 何か言おうとしても親や周りの人が先取りして話してしまう
② 他者の気持ちの理解
「困っている人や怒っている人などを見て・・・」 ☐ 相手の様子（表情や態度等）から分かる ☐ 言葉や態度ではっきり言われると分かる ☐ 人が何を考えているのか全く分からない
③ 相手の気持ちに沿った対応
「相手の気持ちに気づいて行動ができるか」 ☐ 相手の気持ちを尊重した行動を取ろうと思う ☐ 相手に言われるとどうすれば良いか分かる ☐ 相手に言われてもどうすれば良いか分からない ☐ 相手に合わせる必要はない
④ 自己統制
「カッとして腹が立ったときに・・・」 ☐ キレたくなるけど、がまんしたり、その場から離れる ☐ キレないようにしているが、がまんできなくてキレてしまう ☐ キレることがあるが、相手も悪いから仕方ない ☐ 自分はキレたりしない
⑤ マナー
「掃除の時間にさぼっている人やカンニングしている人に気づいたら・・・」 ☐ 状況に合わせて必要であれば注意をする ☐ 身近に家族や先生がいれば相談する ☐ マナー違反の人は気になるが、自分には関係ないので何もしない ☐ マナー違反はいけないことだから、すぐその場で注意をする

⑥ 主体性
「休みの日の過ごし方について・・・」 ☐ 自分で考えて行動する ☐ どうすればいいのか分からない時は家族や先生に相談する ☐ どうすればいいのか分からないので、言われたように行動する ☐ どうすればいいのか分からない時は動けなくなる
⑦ 時間の管理
「友達との約束や予定の調整ができるか」 ☐ スケジュールを組んで、メモや携帯アラームなどを使って行動する ☐ スケジュールは立てるが、実行できないことがある ☐ スケジュールを立てる必要があると思うが、どうして良いか分からない ☐ スケジュールを立てなくても行動できると思う
⑧ 危機管理
「予想外のことや困ったことが起こったら・・・」 ☐ 家族で約束した方法で行動することができる ☐ 困ったときはとりあえず誰かに連絡する ☐ どうしていいか分からなくて困った時は周りの人に訴える ☐ 混乱してパニックになる ☐ そうしたことは今まで一度もないのでわからない
⑨ 障害についての説明
「自分の障害について・・・」 ☐ 自分の障害（苦手なこと）を周囲に説明して理解を求めることができる ☐ トラブルが起きたときに自分の障害について説明する ☐ 自分の障害について説明を聞いたが、自分のこととしてはよく分からない ☐ 障害だと思うことは特にない
⑩ 失敗しないように補助的な手段の利用
「メモや携帯電話などを利用しているか」 ☐ 障害を意識して、失敗しないように補助的な手段を工夫する ☐ トラブルが起きると補助的な手段が必要だと思うが、日常的には使うのは難しい ☐ 訓練では練習したが日常的には使う必要を感じない ☐ 特に補助的な手段を使う必要を感じない

★調査票②－２ 基礎能力について （保護者用：中高生向け）

お子様の普段の行動についてお聞きします。

次の①～⑩の質問について、下の説明を読んで、
お子様の様子に一番近いと思うところに、一つ印をつけて下さい。

① 意思（自分の気持ちや考え）を表示する場面について
「やりたいことや行きたい場所について・・・」 ☐ なんとか自分で工夫して伝えることができる ☐ 困ったときは誰かに代わりに言ってもらう ☐ 考えているうちに親や周りの人が代わりに言っている ☐ 何か言おうとしても親や周りの人が先取りして話してしまう
② 他者の気持ちの理解
「困っている人や怒っている人などを見て・・・」 ☐ 相手の様子（表情や態度等）から分かる ☐ 言葉や態度ではっきり言われると分かる ☐ 人が何を考えているのか全く分からない
③ 相手の気持ちに沿った対応
「相手の気持ちに気づいて行動ができるか」 ☐ 相手の気持ちを尊重した行動を取ろうと思う ☐ 相手に言われるとどうすれば良いか分かる ☐ 相手に言われてもどうすれば良いか分からない ☐ 相手に合わせようとしない
④ 自己統制
「カッとして腹が立ったときに・・・」 ☐ キレたくなるけど、がまんしたり、その場から離れる ☐ キレないようにしているが、がまんできなくてキレてしまう ☐ キレることがあるが、相手も悪いから仕方ない ☐ 自分はキレたりしない
⑤ マナー（他人のことについて）
「掃除の時間にさぼっている人やカンニングしている人に気づいたら・・・」 ☐ 状況に合わせて必要であれば注意をする ☐ 身近に家族や先生がいれば相談する ☐ マナー違反の人は気になるが、自分には関係ないので何もしない ☐ マナー違反はいけないことだから、すぐその場で注意をする

⑥ 主体性
「休みの日の過ごし方について・・・」 ☐ 自分で考えて行動する ☐ どうすればいいのか分からない時は家族や先生に相談する ☐ どうすればいいのか分からないので、言われたように行動する ☐ どうすればいいのか分からない時は動けなくなる
⑦ 時間の管理
「友達との約束や予定の調整ができるか」 ☐ スケジュールを組んで、メモや携帯アラームなどを使って行動する ☐ スケジュールは立てるが、実行できないことがある ☐ スケジュールを立てる必要があると思うが、どうして良いか分からない ☐ スケジュールを立てなくても行動できると思う
⑧ 危機管理
「予想外のことや困ったことが起こったら・・・」 ☐ 家族で約束した方法で行動することができる ☐ 困ったときはとりあえず誰かに連絡する ☐ どうしていいか分からなくて困った時は周りの人に訴える ☐ 混乱してパニックになる ☐ そうしたことは今まで一度もないのでわからない
⑨ 障害についての説明
「自分の障害について・・・」 ☐ 自分の障害（苦手なこと）を周囲に説明して理解を求めることができる ☐ トラブルが起きたときに自分の障害について説明する ☐ 自分の障害について説明を聞いたが、自分のこととしてはよく分からない ☐ 障害だと思うことは特にない
⑩ 失敗しないように補助的な手段の利用
「メモや携帯電話などを利用しているか」 ☐ 障害を意識して、失敗しないように補助的な手段を工夫する ☐ トラブルが起きると補助的な手段が必要だと思うが、日常的には使うのは難しい ☐ 訓練では練習したが日常的には使う必要を感じない ☐ 特に補助的な手段を使う必要を感じない

★調査票③－１ 実践能力について（本人用：小学生向け）

あなたのいつもの生活の様子をお聞きします。自分で考えて答えてください。

1. それぞれ「できる」「助けてもらう」「できない」のどこかに○をつけてください。
もしも、「やっていない／わからない」ときには、その欄に○をつけてください。
2. それぞれの内容について「困っている」と感じているか「はい・いいえ」のどちらかに○をつけてください。

◆自分の家での生活	できる	助けて もらう	できない	やっていない わからない	こま 困っている
き 決められた時間に起きたり寝たりできる					はい・いいえ
じぶん 自分ですすんで歯磨きや顔を洗うことができる					はい・いいえ
おや き 親と決めた約束が守れる（ゲームなど）					はい・いいえ
じぶん ひつよう 自分で必要な時にトイレに行く					はい・いいえ
がっこう 学校からの連絡を親に伝えることができる					はい・いいえ
しゅくだい と 宿題に取り組むことができる					はい・いいえ
あした じゆんび 明日の準備をする（教科書や体操服など）					はい・いいえ
わす もの 忘れ物をしないで登下校ができる					はい・いいえ
ひと もの ほかの人の物との区別ができる					はい・いいえ
か 借りたものを返すことができる					はい・いいえ
◆学校生活	できる	助けて もらう	できない	やっていない わからない	こま 困っている
おな こうどう クラスのみんなと同じ行動ができる					はい・いいえ
かか いいんかい しごと クラスの係りや委員会の仕事ができる					はい・いいえ
よてい やくそく まも 予定や約束を守ることができる					はい・いいえ
じゅぎょう ないよう せんせい はなし 授業の内容や先生の話がわかる					はい・いいえ
じゅぎょうちゆう しず すわ き 授業中は静かに座って聞くことができる					はい・いいえ
じかんわり きょうしついどう こうどう 時間割や教室移動がわかり、行動できる					はい・いいえ
せんせい ともだち なまえ おぼ 先生や友達の名前を覚えることができる					はい・いいえ

★調査票③ー１ 実践能力について（保護者用：小学生向け）

お子様の普段の生活の様子についてお聞きます。

1. それぞれ「出来る」「手助けあり」「出来ない」のどこに当てはまるか考えて、○をつけて下さい。
もし、「やっていない／分からない」とときには、その欄に○をつけて下さい。
※「手助け」には、声掛けが必要な場合を含みます。
2. それぞれの内容について「困っている」と感じているか「はい・いいえ」のどちらかに○をつけて下さい。

◆自宅での生活	出来る	手助けあり	出来ない	やっていない わからない	困っている
決められた時間に起きたり寝たりできる					はい・いいえ
自分ですすんで歯磨きや顔を洗うことができる					はい・いいえ
親と決めた約束が守れる（ゲームなど）					はい・いいえ
自分で必要な時にトイレに行く					はい・いいえ
学校からの連絡を親に伝えることができる					はい・いいえ
宿題に取り組むことができる					はい・いいえ
明日の準備をする（教科書や体操服など）					はい・いいえ
忘れ物をしないで登下校ができる					はい・いいえ
他の人の物との区別ができる					はい・いいえ
借りたものを返すことができる					はい・いいえ
◆学校生活	出来る	手助けあり	出来ない	やっていない わからない	困っている
クラスの人と同じ行動ができる					はい・いいえ
クラスの係りや委員会の仕事ができる					はい・いいえ
予定や約束を守ることができる					はい・いいえ
授業の内容や先生の話がわかる					はい・いいえ
授業中は静かに座って聞くことができる					はい・いいえ
時間割や教室移動がわかり、行動できる					はい・いいえ
先生や友達の名前を覚えることができる					はい・いいえ

★調査票③ー２ 実践能力について（本人用：中高生向け）

あなたの普段の生活の様子をお聞きします。自分で考えて答えてください。

1. それぞれ「出来る」「助けてもらう」「出来ない」のどこに当てはまるか考えて、○をつけて下さい。
もし、「やっていない／分からない」とときには、その欄に○をつけて下さい。
2. それぞれの内容について「困っている」と感じているか「はい・いいえ」のどちらかに○をつけて下さい。

◆自宅での生活	出来る	助けて もらう	出来ない	やっていない わからない	困っている
決められた時間に起きたり寝たりできる					はい・いいえ
ゲームや携帯電話の使用目的や使用時間を守る					はい・いいえ
宿題に取り組むことができる					はい・いいえ
決められた時間に薬を飲むことができる					はい・いいえ
自分の疲れに気づき、休むことができる					はい・いいえ
適度に体を動かすことができる					はい・いいえ
忘れ物をしないで登下校ができる					はい・いいえ
借りたものを返すことができる					はい・いいえ
◆学校生活	出来る	助けて もらう	出来ない	やっていない わからない	困っている
部活動へ参加できる					はい・いいえ
困ったときに友達や先生に相談することができる					はい・いいえ
予定や約束を守ることができる					はい・いいえ
教科の内容が理解できる					はい・いいえ
授業へ集中できる					はい・いいえ
ノートの記載ができる					はい・いいえ
時間割や教室移動を理解し行動できる					はい・いいえ
先生や友達の名前を覚えることができる					はい・いいえ
友達との適切な関係が作れる					はい・いいえ

★調査票③ー２ 実践能力について（保護者用：中高生向け）

お子様の普段の生活の様子をお聞きします。

1. それぞれ「出来る」「手助けあり」「出来ない」のどこに当てはまるか考えて、○をつけて下さい。
もし、「やっていない／分からない」とときには、その欄に○をつけて下さい。
※「手助け」には、声掛けが必要な場合を含みます。

2. それぞれの内容について「困っている」と感じているか「はい・いいえ」のどちらかに○をつけて下さい。

◆自宅での生活	出来る	手助けあり	出来ない	やっていない わからない	困っている
決められた時間に起きたり寝たりできる					はい・いいえ
ゲームや携帯電話の使用目的や使用時間を守る					はい・いいえ
宿題に取り組むことができる					はい・いいえ
決められた時間に薬を飲むことができる					はい・いいえ
自分の疲れに気づき、休むことができる					はい・いいえ
適度に体を動かすことができる					はい・いいえ
忘れ物をしないで登下校ができる					はい・いいえ
借りたものを返すことができる					はい・いいえ
◆学校生活	出来る	手助けあり	出来ない	やっていない わからない	困っている
部活動へ参加できる					はい・いいえ
困ったときに友達や先生に相談することができる					はい・いいえ
予定や約束を守ることができる					はい・いいえ
教科の内容が理解できる					はい・いいえ
授業へ集中できる					はい・いいえ
ノートの記載ができる					はい・いいえ
時間割や教室移動を理解し行動できる					はい・いいえ
先生や友達の名前を覚えることができる					はい・いいえ
友達との適切な関係が作れる					はい・いいえ

調査にあたる皆様へ

聖隷三方原病院 調査票 記入上の注意

研究課題③「小児高次脳機能障害者の家族支援プログラムの検討」

調査全般の注意事項

- ※ 本研究は、調査時点で、「小学校・中学校・高等学校・専門学校・短期大学・大学」に在籍中の方を対象としています。
- ※ 調査票は、基本的にご本人または保護者の方に直接記入していただくように作成しています。その際に質問意図などが分かりにくい部分について下記に注釈を設けましたので、適宜補足をお願い致します。
- ※ 調査票は3種類あります。協力者の方とその保護者の方に3種類ずつ回答して頂くようにお願い致します。
- ※ 協力者の方の年齢に応じて、【小学生用】【中高生用（大学生を含む）】を選択し、それぞれの《本人用》《保護者用》をご使用下さい。本人用と保護者用の内容は、ほぼ同一となります。
- ※ 協力者の方と保護者の方それぞれの回答を比較したいので、お互いに相談せずに記入してもらってください。

調査票①

項目	注意点
1 2	※質問項目は1・2共通、本人・保護者用で同一の内容です。 1) 受傷前の状況について振り返って回答してもらってください。 2) 現在（調査時点）の状況について回答してもらってください。 ■本人用：お子さん自身が受傷前・後の自分の状態やその変化をご自身でどう捉えているかを尋ねています。 ■保護者用：ご家族が受傷前・後のお子さんの状況をどのように捉えているかを尋ねています。 ①友達とのこと ②学校のこと ③家族とのこと ④学校以外の過ごし方：上段（自分からすすんでやったのかどうか）、 下段（続けられたのかどうか）、それぞれに印をつけてください。
3	受傷前後で性格の変化をお子さん自身や保護者の方がどう捉えているかお聞きします。 「すごく変わった」、「少し変わった」と答えた方のみ、下の括弧内にどう変わったのか、 どのような違いがあると思うのかを具体的に記入してもらってください。 ※保護者用のみ※ お子さんの現在の性格傾向についてお聞きします。 これは、受傷／発症によって性格が変化したかではなく、現在の性格についてどちらの 傾向が強いかということを探ねて、どちらか一方に印をつけてもらってください。

調査票②

注意点
■ 普段の様子を振り返って、各項目の「 」に挙げた場面や内容について、下の選択肢の中から自分の考えに一番近いと思うところに一つ印をつけてもらってください。 ■ 「 」に挙げた場面になったことがないという場合には、“その状況になったとしたら”として考えるように説明してください。

調査票③

項目	注意点
1	「自宅での生活」「学校生活」の個々の項目について、〔できる〕〔助けてもらう／手助けあり〕〔できない〕のどれか一つを選択してもらいます。 内容に該当しない場合や状況が不明な場合には〔やっていない／わからない〕を選択するように説明してください。 「助けてもらう／手助けあり」には、声掛けが必要な場合も含まれます。
2	それぞれの項目について、出来る・出来ないに関わらず、困っていると感じているかを「はい」「いいえ」で回答してもらってください。

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷三方原病院
リハビリテーション科部長 片桐 伯真

一般社団法人日本損害保険協会自賠責運用益拋出事業
「学童期・青年期にある高次脳機能障害者に対する総合的な支援に関する研究」のうち
「3.小児高次脳機能障害者の家族支援プログラムの検討」に係る調査協力依頼について

人生の途中で起こる高次脳機能障害の方々の中には、小児期に発症し復学や進学に際し様々な困難を抱えている方々もおられます。しかし、学びの途上で発症した人たちに対する支援は、医療の分野においても教育の分野においても未だ十分にその方法が体系化されているとは言い難い現状です。こうした支援体制の未整備さは、ご家族への負担を大きくし、ひいては当事者・ご家族の混乱を大きくすることにもなりがちです。

そこで私たちは、上記研究の一環として、高次脳機能障害を有するお子さん及びそのご家族に対して、日常生活の様子やご本人の自己評価とご家族からみた評価について調査し、小児期発症の高次脳機能障害を有するお子さんやご家族の支援に生かしていきたいと考えております。

ご多忙中恐縮に存じますが、本研究の意義を御理解の上、調査にご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

【研究代表者】野村忠雄（前富山県高次脳機能障害支援センター長）

【主たる研究項目および分担研究者】

1. 学童期の集団活動に必要なプログラムの検討：武居光雄（諏訪の杜病院長、大分県）
2. 医療機関と教育機関の支援の連携についての検討
：栗原まな（神奈川県総合リハ・センター小児科、神奈川県）
- 3. 小児高次脳機能障害者の家族支援プログラムの検討：片桐伯真（聖隷三方原病院 リハ科、静岡県）**
4. 青年期における社会適応活動支援プログラムの検討
：大塚 恵美子（千葉県千葉リハ・高次脳機能障害支援センター長、千葉県）
5. 青年期におけると就労定着支援システムの検討
：野村忠雄（前富山県高志リハビリテーション病院長、富山県）

【ご協力いただきたい内容】

- 当事者の生年月日、疾患名など基本的な情報、および調査票項目のうち、診療録から転記できる項目はあらかじめ転記しておきます。
- その後、都合のよいお時間に、3種類の調査票の内容について、ご本人・ご家族それぞれから聞き取り調査を行います。所要時間は15～30分の予定です。

なお、本調査にあたっては、プライバシーを厳守し、調査内容を事業の目的以外には使用致しません。また、後日調査対象から離脱を希望される方については調査対象から除外し、それまでに調査した事項を速やかに抹消致します。本調査に参加されない方、途中で離脱される方においては、そのことで何ら不利益を被ることはありません。

研究成果の公表は報告書、論文、学会発表であり、個人が特定できるような形式で公表されることはありません。

■研究のお問い合わせ先

〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町 3453

Tel : 053-436-1251 Fax : 053-439-9036

聖隷三方原病院リハビリテーション科部長 片桐伯真

同意書

聖隷三方原病院

リハビリテーション科部長 片桐 伯真 様

〔調査名〕「小児高次脳機能障害者の家族支援プログラムの検討」のための基礎的調査

上記調査の協力にあたり、_____より説明文書を用いて説明を受け、以下の項目について十分理解しましたので、実施する調査に協力し、そこから得られるデータの使用について同意します。

.....

説明を受けて理解した項目の□の中にレ印をつけてください

- ☐ 研究の目的と方法を理解しました。
- ☐ プライバシーが保護されることを理解しました。
- ☐ 研究成果の公表では、個人を特定できる情報は公開されないことを理解しました。
- ☐ 研究途中でいつでも協力を撤回することができることを理解しました。
- ☐ 撤回したいときには、同意撤回書を用いることを理解しました。
- ☐ 協力に同意しないことや協力を撤回することで不利益を受けないことを理解しました。

.....

平成 27 年 月 日

研究協力者 当事者 氏 名 _____

保護者 氏 名 _____

同意撤回書

聖隷三方原病院

リハビリテーション科部長 片桐 伯真 様

〔調査名〕「小児高次脳機能障害者の家族支援プログラムの検討」のための基礎的調査

上記調査に協力するにあたり、研究責任者から説明を受け、十分理解し同意しましたが、自由意思による協力の中止も自由であることから、この調査協力への同意を撤回したく、ここに同意撤回書を提出します。

当事者 氏 名 _____

保護者 氏 名 _____

署 名 年 月 日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

本調査の協力に関する同意は撤回されたことを確認します。

研究責任者氏名 _____

④青年期における社会適応活動と就労支援プログラムの検討

- ・調査票（在学中の方用）、（卒業後の方用）
- ・別紙（郵送用）－ 1、2、3
- ・記入上の注意
- ・調査への協力をお願い
- ・同意書
- ・同意撤回書

分担研究者：吉永 勝訓

（千葉県千葉リハビリテーションセンター）

調査票（在学中の方用） 記入上の注意ご覧ください

ご家族に聞き取って、以下の質問について、該当する項目にチェックをして下さい。

※の項目は、調査員が事実を確認できている場合は、家族に聞き取らず調査員が記載してよい。

問1※ 幼児期についてお聞きします。

□1 発症・受傷前だった → 通所通園先 □1 なし □2 幼稚園・保育所 □3 療育施設

□2 この時期に発症・受傷 → 通所通園先 □1 なし □2 幼稚園・保育所 □3 療育施設

□1 発症・受傷後通所通園先を変更しなかった

□2 変更した → 変更後の通所通園先 □1 なし □2 幼稚園・保育所 □3 療育施設

□3 幼児期前の発症・受傷 → 通所通園先 □1 なし □2 幼稚園・保育所 □3 療育施設

問2※ 小学生の時期についてお聞きします。

□1 発症・受傷前だった → 通学先 □1 通常学級 □2 特別支援学級 □3 特別支援学校

□2 この時期に発症・受傷 → 通学先 □1 通常学級 □2 特別支援学級 □3 特別支援学校

□1 発症・受傷後通学先を変更しなかった

□2 変更した → 変更後の通学先 □1 通常学級 □2 特別支援学級 □3 特別支援学校

□3 小学生以前の発症・受傷→通学先 □1 通常学級 □2 特別支援学級 □3 特別支援学校

問3 [小低学年までの発症者のみ]小学生低学年の時期には、在籍校や進学先の決定について、ご本人の意向は明確でしたか。

□1 本人の意向が明確だった。

□1 家族や周囲(学校等)も同じ意向で、本人の意向に沿った

□2 最終的に、本人の意向ではなく、家族や周囲(学校等)の意向に沿った

□2 本人の意向は不明確で、家族や周囲(学校等)の意向に沿った。

□3 その他（ ）

問4 [小高学年までの発症者のみ]小学生高学年の時期には、在籍校や進学先の決定について、ご本人の意向は明確でしたか。

□1 本人の意向が明確だった。

□1 家族や周囲(学校等)も同じ意向で、本人の意向に沿った

□2 最終的に、本人の意向ではなく、家族や周囲(学校等)の意向に沿った

□2 本人の意向は不明確で、家族や周囲(学校等)の意向に沿った。

□3 その他（ ）

問5 [小学校までの発症者のみ]発症・受傷後、小学校で通常学級に在籍した方にうかがいます。通常学級に在籍しながら受けた学習上の支援についてお聞きします。

□1 支援を受けなかった

□2 支援を受けた

↓

支援を受けた方はどのような支援を受けましたか？ 該当するもの全てに✓を

□1 通級教室に通った □2 サポートの教師がついた

□3 担任の先生の理解（□補習あり□宿題の軽減□他の子に説明□座席位置□その他）

□4 その他（ ）

問6※ 中学生の時期についてお聞きします。

□1 発症・受傷前だった → 通学先 □1 通常学級 □2 特別支援学級 □3 特別支援学校

□2 この時期に発症・受傷 → 通学先 □1 通常学級 □2 特別支援学級 □3 特別支援学校

□1 発症・受傷後通学先を変更しなかった

□2 変更した → 変更後の通学先 □1 通常学級 □2 特別支援学級 □3 特別支援学校

□3 中学生以前の発症・受傷→通学先 □1 通常学級 □2 特別支援学級 □3 特別支援学校

問7 [中学校までの発症者のみ]中学生の時期には、在籍校や進学先の決定について、
ご本人の意向は明確でしたか。

□1 本人の意向が明確だった。

□1 家族や周囲(学校等)も同じ意向で、本人の意向に沿った

□2 最終的に、本人の意向ではなく、家族や周囲(学校等)の意向に沿った

□2 本人の意向は不明確で、家族や周囲(学校等)の意向に沿った。

□3 その他 ()

問8 [中学校までの発症者のみ]発症・受傷後、中学校で通常学級に在籍した方にうかがいます。
通常学級に在籍しながら受けた学習上の支援についてお聞きします。

□1 支援を受けなかった

□2 支援を受けた

↓

支援を受けた方はどのような支援を受けましたか？ 該当するもの全てに✓を

□1 通級教室に通った □2 サポートの教師がついた

□3 担任等の先生の理解 (□補習あり□宿題の軽減□他の子に説明□座席位置□その他)

□4 その他 ()

問9※ 高校生の時期についてお聞きします。

□2 この時期に発症・受傷した → 通学先 □1 通常校普通科 □2 通常校職業科

□3 通信制 □4 定時制 □5 サポート校 □6 特別支援学校 □7 なし

□発症・受傷後通学先を変更しなかった

□変更した → 変更後の通学先 □1 通常校普通科 □2 通常校職業科

□3 通信制 □4 定時制 □5 サポート校 □6 特別支援学校 □7 退学

□3 高校生以前の発症・受傷 → 通学先 □1 通常校普通科 □2 通常校職業科

□3 通信制 □4 定時制 □5 サポート校 □6 特別支援学校 □7 なし

問10 高校生の時期、在籍校や進路の決定について、ご本人の意向は明確です(でした)か。

□1 本人の意向が明確である(だった)

□1 家族や周囲(学校等)も同じ意向で、本人の意向に沿うと思う(沿った)

□2 最終的に、本人の意向ではなく、家族や周囲(学校等)の意向に沿うと思う(沿った)

□2 本人の意向は不明確で、家族や周囲(学校等)の意向に沿うと思う(沿った)

□3 その他 ()

問 1 1 在籍している（していた）高校はどのような学校ですか？

該当するもの全てに✓を

- ☐1 特別な学校生活上の配慮はない ☐2 学校生活上の配慮がある
☐3 実習はないが就職指導がある ☐4 就職指導があり実習もある
☐5 その他（ ）

問 12※ 「専門学校・短大・大学に在籍している方のみ」

専門学校・短大・大学に在籍している方にうかがいます。

在籍している学校はどのような学校ですか？該当するもの全てに✓を

- ☐1 学校側からの配慮がある
 ☐2 ゆったりと単位取得ができる
- ☐3 特別の配慮がないが相談できる
 ☐4 資格取得のための課程ではない
- ☐5 資格の取得を目指す課程である

↓

どのような資格取得を目指す課程ですか（ ）

卒業するには資格取得や資格試験受験が必須ですか

- 1 資格取得を目指すことが必須である □2 資格を目指さなくても卒業できる

問 13※ [専門学校・短大・大学に在籍している方のみ]

専門学校・短大・大学に、一度入学してから、転校や転学部をしたことがありますか？

- ☐1 ない ☐2 学部を移ったことがある ☐3 退学し、別の学校に変わったことがある

ご本人は転学部・転校・退学に納得していましたか？

- ☐1 納得していた
 ☐2 納得していなかったがやむをえなかった
 ☐3 その他（ ）

問 14※ 「専門学校・短大・大学に在籍している方のみ」

留年をしたことがありますか？

- 1 ない □2 ある

問 15 [専門学校・短大・大学に在籍している方のみ]

現在、就職についてどのような情報や支援を得ていますか？

該当するもの全てに✓を

- ☐1 まだ就職についての情報や支援を求めている
- ☐2 一般の学生と同じ就職セミナー
- ☐3 就職担当が障害について聞いてくれる(くれた)
- ☐4 障害を持つ学生のための合同面接会の情報を教えてもらえる(もらった)
- ☐5 障害を持つ学生のための合同面接会に一緒に行ってくれる(くれた)
- ☐6 本人のために具体的な障害者雇用の就職先の候補を提示してくれる(くれた)
- ☐7 その他()

問 1 6 [専門学校・短大・大学に在籍している方のみ] 今後の進路の決定について、
 ご本人の意向は明確ですか。

☐1 本人の意向が明確である。

☐1 家族や周囲(親族・支援者)も同じ意向で、本人の意向に沿うと思う

☐2 最終的に、本人の意向ではなく、家族や周囲(親族・支援者)の意向に沿うと思う

☐2 本人の意向は不明確で、家族や周囲(学校等)の意向に沿うと思う

☐3 その他 ()

問 1 7 今までに、就職のために学校以外の支援機関を利用したことがありますか？
 (今、利用していますか) ?

☐1 まったく利用したことがない

☐2 利用している・利用したことがある

↓

今までに利用したことがある支援機関全てに✓を

☐1 医療機関 ()

☐2 高次脳機能障害の支援拠点機関 ()

☐3 障害者職業センター ()

☐4 障害者就業・生活支援センター ()

☐5 就労移行支援施設 ()

☐6 就労継続支援施設 B 型 ()

☐7 その他 ()

注 : 1 と 2 が重複した際は 2 を選ぶ。

問 1 8 今までに、就職のために学校以外の支援機関をご本人が利用したことがない方に、
 うかがいます。 ご本人が利用したことがないのはどうしてですか？

該当するもの全てに✓を

☐1 まだ就職活動の段階ではない(なかった)から

☐2 支援を受けられることを知らない(なかった)から

☐3 支援を受けるためには、どこに相談すればいいかを知らない(なかった)から

☐4 親が支援を受ける必要はないと考えている(いた)から

☐5 本人が支援を受ける必要はないと考えている(いた)から

☐6 学校で就労支援を受けている(いた)から

☐7 その他 ()

問 1 9 就職のために学校以外の支援機関をご本人が利用したことがある方にうかがいます
 ご家族はどの程度、かかわっていらっしゃいますか？

該当するもの全てに✓を

☐1 ほとんど関与していない

☐2 支援者と連絡を取り合っている

☐3 説明会・面接などポイントの日程は把握したことを本人に知らせている

☐4 説明会・面接などポイントでは任せきりにせず本人に同行している

☐5 その他 ()

問 2 0 就職のために学校以外の支援機関をご本人が利用していない方に、うかがいます。

ご家族はどの程度、就職活動にかかわっていらっしゃいますか？

該当するもの全てに✓を

- ☐1 まだ就職活動の段階ではない
- ☐2 本人任せでほとんど関与していない
- ☐3 どういう支援があるのか調べている
- ☐4 どういう支援があるのか相談している
- ☐5 調べたり相談した結果で、必要なときに本人に知らせている
- ☐6 調べたり相談した結果で、必要なときに本人に同行している
- ☐7 学校で就労支援を受けていて、学校に任せている

↓

ご家族はどういうところで調べたり、相談していますか？

()

問 2 1 現在に在籍している学校（高校・専門学校・短大・大学等）でのことをうかがいます。

障害について学校(担任・教務関係)に伝えましたか？

- ☐1 まったく伝えていない →問 2 4 へ
- ☐2 伝えてあるが具体的なやりとりはない →問 2 2 へ
- ☐3 伝えてあり具体的なやり取りがある →問 2 2 へ
- ☐4 その他 ()

問 2 2 現在に在籍している学校（高校・専門学校・短大・大学等）で障害について学校(担任・教務関係)に伝えている方にうかがいます。伝えたのはどの時期でしたか？

- ☐0 受験する前、入学が決まるまでの間
- ☐1 入学が決まってから通学開始するまでの間
- ☐2 通学開始後、学校生活上に支援の必要性を感じてから
- ☐3 単位の取得など卒業するための支援の必要性を感じてから
- ☐4 その他 ()

問 2 3 現在に在籍している学校（高校・専門学校・短大・大学等）で障害について学校(担任・教務関係)に伝えている方にうかがいます。伝えることに本人は納得していましたか？

- ☐1 納得しており、本人が伝えたか、本人も同席をした
- ☐2 納得していたが、本人は同席しなかった
- ☐3 納得していなかったが、本人も知っていた
- ☐4 納得していなかったため、本人には知らせなかった
- ☐5 その他 ()

問 2 4 現在に在籍している学校（高校・専門学校・短大・大学等）で障害について学校（担任・教務関係）に伝えていない方にうかがいます。伝えていないのはどうしてですか？

該当するもの全てに✓を

- ☐1 親子とも配慮や支援を受ける必要がないと考えているから
☐2 伝えても必要な配慮や支援が受けられないと考えているから
☐3 本人が伝えて欲しくないと考えているから
☐4 その他（ ）

問 25 学校の在学中に通常学級から特別支援学級や特別支援学校に進路を変更したことがある方にうかがいます。進路変更を決めた理由は何でしたか？

該当するもの全てに✓をつけ、最も大きな理由の（ ）に○をつけて下さい

- ☐ () 1 学習についての支援が得られやすいと思ったから
☐ () 2 友人関係でうまくいかないことが多くなっていたから
☐ () 3 本人が心理的な面で学校に適応しやすいと思ったから
☐ () 4 体育や手を使う活動の参加への配慮が得やすいと思ったから
☐ () 5 卒業後の進路について支援や指導を受けやすいと思ったから
☐ () 6 本人が希望したから
☐ () 7 その他 ()

ご協力いただき、ありがとうございました。

調査票（卒業後の方用） 記入上の注意ご覧ください

ご家族に聞き取って、以下の質問について、該当する項目にチェックをして下さい。

※の項目は、調査員が事実を確認できている場合は、家族に聞き取らず調査員が記載してよい。

問1※ 幼児期についてお聞きします。

- ☐1 発症・受傷前だった → 通所通園先 ☐1 なし ☐2 幼稚園・保育所 ☐3 療育施設
☐2 この時期に発症・受傷 → 通所通園先 ☐1 なし ☐2 幼稚園・保育所 ☐3 療育施設
☐1 発症・受傷後通所通園先を変更しなかった
☐2 変更した → 変更後の通所通園先 ☐1 なし ☐2 幼稚園・保育所 ☐3 療育施設
☐3 幼児期前の発症・受傷 → 通所通園先 ☐1 なし ☐2 幼稚園・保育所 ☐3 療育施設

問2※ 小学生の時期についてお聞きします。

- ☐1 発症・受傷前だった → 通学先 ☐1 通常学級 ☐2 特別支援学級 ☐3 特別支援学校
☐2 この時期に発症・受傷 → 通学先 ☐1 通常学級 ☐2 特別支援学級 ☐3 特別支援学校
☐1 発症・受傷後通学先を変更しなかった
☐2 変更した → 変更後の通学先 ☐1 通常学級 ☐2 特別支援学級 ☐3 特別支援学校
☐3 小学生以前の発症・受傷→通学先 ☐1 通常学級 ☐2 特別支援学級 ☐3 特別支援学校

問3 [小低学年までの発症者のみ]小学生低学年の時期には、在籍校や進学先の決定について、ご本人の意向は明確でしたか。

- ☐1 本人の意向が明確だった。
☐1 家族や周囲(学校等)も同じ意向で、本人の意向に沿った
☐2 最終的に、本人の意向ではなく、家族や周囲(学校等)の意向に沿った
☐2 本人の意向は不明確で、家族や周囲(学校等)の意向に沿った。
☐3 その他（ ）

問4 [小高学年までの発症者のみ]小学生高学年の時期には、在籍校や進学先の決定について、ご本人の意向は明確でしたか。

- ☐1 本人の意向が明確だった。
☐1 家族や周囲(学校等)も同じ意向で、本人の意向に沿った
☐2 最終的に、本人の意向ではなく、家族や周囲(学校等)の意向に沿った
☐2 本人の意向は不明確で、家族や周囲(学校等)の意向に沿った。
☐3 その他（ ）

問5 [小学校までの発症者のみ]発症・受傷後、小学校で通常学級に在籍した方にうかがいます。通常学級に在籍しながら受けた学習上の支援についてお聞きします。

- ☐1 支援を受けなかった
☐2 支援を受けた
 ↓
 支援を受けた方はどのような支援を受けましたか？ 該当するもの全てに✓を
☐1 通級教室に通った ☐2 サポートの教師がついた
☐3 担任の先生の理解（☐補習あり☐宿題の軽減☐他の子に説明☐座席位置☐その他）
☐4 その他（ ）

問6※ 中学生の時期についてお聞きします。

□1 発症・受傷前だった → 通学先 □1 通常学級 □2 特別支援学級 □3 特別支援学校

□2 この時期に発症・受傷 → 通学先 □1 通常学級 □2 特別支援学級 □3 特別支援学校

□1 発症・受傷後通学先を変更しなかった

□2 変更した → 変更後の通学先 □1 通常学級 □2 特別支援学級 □3 特別支援学校

□3 中学生以前の発症・受傷→通学先 □1 通常学級 □2 特別支援学級 □3 特別支援学校

問7 [中学校までの発症者のみ]中学生の時期には、在籍校や進学先の決定について、ご本人の意向は明確でしたか。

□1 本人の意向が明確だった。

□1 家族や周囲(学校等)も同じ意向で、本人の意向に沿った

□2 最終的に、本人の意向ではなく、家族や周囲(学校等)の意向に沿った

□2 本人の意向は不明確で、家族や周囲(学校等)の意向に沿った。

□3 その他 ()

問8 [中学校までの発症者のみ]発症・受傷後、中学校で通常学級に在籍した方にうかがいます。通常学級に在籍しながら受けた学習上の支援についてお聞きします。

□1 支援を受けなかった

□2 支援を受けた

↓

支援を受けた方はどのような支援を受けましたか？ 該当するもの全てに✓を

□1 通級教室に通った □2 サポートの教師がついた

□3 担任等の先生の理解 (□補習あり□宿題の軽減□他の子に説明□座席位置□その他)

□4 その他 ()

問9※ 高校生の時期についてお聞きします。

□2 この時期に発症・受傷した → 通学先 □1 通常校普通科 □2 通常校職業科

□3 通信制 □4 定時制 □5 サポート校 □6 特別支援学校 □7 なし

□発症・受傷後通学先を変更しなかった

□変更した → 変更後の通学先 □1 通常校普通科 □2 通常校職業科

□3 通信制 □4 定時制 □5 サポート校 □6 特別支援学校 □7 退学

□3 高校生以前の発症・受傷 → 通学先 □1 通常校普通科 □2 通常校職業科

□3 通信制 □4 定時制 □5 サポート校 □6 特別支援学校 □7 なし

問10 高校生の時期には、在籍校や進路の決定について、ご本人の意向は明確でしたか。

□1 本人の意向が明確だった。

□1 家族や周囲(学校等)も同じ意向で、本人の意向に沿った

□2 最終的に、本人の意向ではなく、家族や周囲(学校等)の意向に沿った

□2 本人の意向は不明確で、家族や周囲(学校等)の意向に沿った。

□3 その他 ()

該当するもの全てに✓を

- 問 12※ 「専門学校・短大・大学に在籍していた方のみ」

在籍している学校はどのような学校ですか？該当するもの全てに✓を

- ↓

□1 資格取得を目指すことが必須である □2 資格を目指さなくても卒業できる

☐1 ない ☐2 学部を移ったことがある ☐3 退学したり、別の学校に変わったことがある

↓

□3 その他（ ）

☐1 ない ☐2 ある

該当するもの全てに✓を

- 59 —

問 1 6 [専門学校・短大・大学に在籍していた方のみ] 専門学校・短大・大学に在籍中、卒業後の進路の決定について、ご本人の意向は明確でしたか。

☐1 本人の意向が明確だった。

☐1 家族や周囲(学校等)も同じ意向で、本人の意向に沿った

☐2 最終的に、本人の意向ではなく、家族や周囲(学校等)の意向に沿った

☐2 本人の意向は不明確で、家族や周囲(学校等)の意向に沿った。

☐3 その他 ()

問 1 7-1 最後の学校に在学中、就職のために学校以外の支援機関を利用しましたか？

☐1 まったく利用しなかった

☐2 利用したことがある

↓

在学中に利用したことがある支援機関全てに✓を

- | | | |
|--------------------------|------------------|-----|
| ☐ | 1 医療機関 | () |
| ☐ | 2 高次脳機能障害の支援拠点機関 | () |
| ☐ | 3 障害者職業センター | () |
| ☐ | 4 障害者就業・生活支援センター | () |
| ☐ | 5 就労移行支援施設 | () |
| ☐ | 6 就労継続支援施設 B 型 | () |
| ☐ | 7 その他 | () |

注：1 と 2 が重複した際は 2 を選ぶ。

問 1 7-2 最後の学校を卒業後、就職のために支援機関を利用しましたか(していますか)？

☐1 まったく利用しなかった(していない)

☐2 利用したことがある(している)

↓

卒業後に利用したことがある支援機関全てに✓を

- | | | |
|--------------------------|------------------|-----|
| ☐ | 1 医療機関 | () |
| ☐ | 2 高次脳機能障害の支援拠点機関 | () |
| ☐ | 3 障害者職業センター | () |
| ☐ | 4 障害者就業・生活支援センター | () |
| ☐ | 5 就労移行支援施設 | () |
| ☐ | 6 就労継続支援施設 B 型 | () |
| ☐ | 7 その他 | () |

注：1 と 2 が重複した際は 2 を選ぶ。

問 18 最後の学校に在学中、就職のために学校以外の支援機関をご本人が利用しなかった方に、うかがいます。 ご本人が利用しなかったのはどうしてですか？

該当するもの全てに✓を

- ☐1 まだ就職活動の段階ではなかったから
☐2 支援を受けられることを知らなかったから
☐3 支援を受けるためには、どこに相談すればいいかを知らなかったから
☐4 親が支援を受ける必要はないと考えたから
☐5 本人が支援を受ける必要はないと考えたから
☐6 学校で就労支援を受けていたから
☐7 その他（ ）

問 19 就職のために学校以外の支援機関をご本人が利用したことがある方にうかがいます。
ご家族はどの程度、かかわっていらっしゃいました（います）か？

該当するもの全てに✓を

- ☐1 ほとんど関与しなかった（していない）
☐2 支援者と連絡を取り合っていた（いる）
☐3 説明会・面接などポイントの日程は把握したことを本人に知らせていた（いる）
☐4 説明会・面接などポイントでは任せきりにせず本人に同行していた（いる）
☐5 その他（ ）

問 20 最後の学校に在学中、就職のために学校以外の支援機関をご本人が利用しなかった方に、うかがいます。

ご家族はどの程度、就職活動にかかわっていらっしゃいました（ます）か？

該当するもの全てに✓を

- ☐1 まだ就職活動の段階ではなかった
☐2 本人任せでほとんど関与していなかった
☐3 どういう支援があるのか調べていた
☐4 どういう支援があるのか相談していた
☐5 調べたり相談した結果で、必要なときに本人に知らせていた
☐6 調べたり相談した結果で、必要なときに本人に同行していた
☐7 学校で就労支援を受けていて、学校に任せていた

↓

ご家族はどういうところで調べたり、相談していましたか？

（ ）

問 21 最後に在籍していた学校（高校・専門学校・短大・大学等）でのことをうかがいます。
障害について学校（担任・教務関係）に伝えていましたか？

- ☐1 まったく伝えていなかった →問 24 へ
☐2 伝えてあったが具体的なやりとりはなかった →問 22 へ
☐3 伝えてあり具体的なやり取りがあった →問 22 へ
☐4 その他（ ）

問 2 2 最後^①に在籍していた学校で障害について学校(担任・教務関係)に伝えていた方に
うかがいます。伝えたのはどの時期でしたか？

☐0 受験する前、入学が決まるまでの間

☐1 入学が決まってから通学開始するまでの間

☐2 通学開始後、学校生活上に支援の必要性を感じてから

☐3 単位の取得など卒業するための支援の必要性を感じてから

☐4 その他 ()

問 2 3 最後^①に在籍していた学校で障害について学校(担任・教務関係)に伝えていた方に
うかがいます。伝えることに本人は納得していましたか？

☐1 納得しており、本人が伝えたか、本人も同席をした

☐2 納得していたが、本人は同席しなかった

☐3 納得していなかったが、本人も知っていた

☐4 納得していなかったため、本人には知らせなかった

☐5 その他 ()

問 2 4 最後^①に在籍していた学校で障害について学校(担任・教務関係)に伝えていなかった方
にうかがいます。伝えなかったのはどうしてですか？

該当するもの全てに✓を

☐1 親子とも配慮や支援を受ける必要がないと考えていたから

☐2 伝えても必要な配慮や支援が受けられないと考えたから

☐3 本人が伝えて欲しくないと考えていたから

☐4 その他 ()

問 2 5 学校の在学中に通常学級から特別支援学級や特別支援学校に進路を変更したことが
ある方にうかがいます。進路変更を決めた理由は何でしたか？

該当するもの全てに✓をつけ、最も大きな理由の()に○をつけて下さい

☐ () 1 学習についての支援が得られやすいと思ったから

☐ () 2 友人関係でうまくいかないことが多くなっていたから

☐ () 3 本人が心理的な面で学校に適応しやすいと思ったから

☐ () 4 体育や手を使う活動の参加への配慮が得やすいと思ったから

☐ () 5 卒業後の進路について支援や指導を受けやすいと思ったから

☐ () 6 本人が希望したから

☐ () 7 その他 ()

ご協力いただき、ありがとうございました。

調査の回答時に用いる選択肢となります。

お電話を差し上げたときにご覧いただきながら、お答えいただく予定です。

① 在籍校や進路について、ご本人の意向がはっきりしていたかどうかをうかがう際に用います

☐1 本人の意向が明確だった。

☐1 家族や周囲(学校等)も同じ意向で、本人の意向に沿った

☐2 最終的に、本人の意向ではなく、家族や周囲(学校等)の意向に沿った

☐2 本人の意向は不明確で、家族や周囲(学校等)の意向に沿った。

☐3 その他 ()

② (小中学校の)通常学級での学習上の配慮の有無についてうかがうときに用います

☐1 支援を受けなかった

☐2 支援を受けた

↓

支援を受けた方はどのような支援を受けましたか？ 該当するもの全てに✓を

☐1 通級教室に通った ☐2 サポートの教師がついた

☐3 担任の先生の理解 (☐補習あり ☐宿題の軽減 ☐他の子に説明 ☐座席位置 ☐その他)

☐4 その他 ()

③ 高校についてうかがうときに用います

該当するもの全てに✓を

☐1 特別な学校生活上の配慮はない ☐2 学校生活上の配慮がある

☐3 実習はないが就職指導がある ☐4 就職指導があり実習もある

就職活動についてうかがうときの選択肢です

④ 就職のために利用する学校以外の支援機関についてうかがうときに用います

☐1 まったく利用していない

☐2 利用している・利用したことがある

↓

利用したことがある支援機関の選択肢

☐1 医療機関 ()

☐2 高次脳機能障害の支援拠点機関 ()

☐3 障害者職業センター ()

☐4 障害者就業・生活支援センター ()

☐5 就労移行支援施設 ()

☐6 就労継続支援施設 B 型 ()

☐7 その他 ()

注：1 医療機関が 2 支援拠点機関である際は 2 を選ぶ。

⑤ 就職活動についての家族の関わりについてうかがうときに用います

該当するもの全てに✓を

☐1 ほとんど関与しなかった(していない)

☐2 支援者と連絡を取り合っていた (いる)

☐3 説明会・面接などポイントの日程は把握したことを本人に知らせていた(いる)

☐4 説明会・面接などポイントでは任せきりにせず本人に同行していた(いる)

☐5 その他 ()

- ⑥ 就職のために利用する学校以外の支援機関を利用されていない(なかった)方にうかがう際に用います。 利用しなかったのはどうしてですか？

該当するもの全てを選択

- ☐1 まだ就職活動の段階ではない(なかった)から
☐2 支援を受けられることを知らない(なかった)から
☐3 支援を受けるためには、どこに相談すればいいかを知らない(なかった)から
☐4 親が支援を受ける必要はないと考えている(いた)から
☐5 本人が支援を受ける必要はないと考えている(いた)から
☐6 学校で就労支援を受けている(いた)から
☐7 その他 ()

- ⑦ 就職のために利用する学校以外の支援機関を利用されていない方にうかがう際に用います
 ご家族はどの程度、就職活動にかかわっていらっしゃいますか？

該当するもの全てを選択

- ☐1 まだ就職活動の段階ではなかった(ではない)
☐2 本人任せでほとんど関与していなかった(いない)
☐3 どういう支援があるのか調べていた(いる)
☐4 どういう支援があるのか相談していた(いる)
☐5 調べたり相談した結果で、必要なときに本人に知らせていた(いる)
☐6 調べたり相談した結果で、必要なときに本人に同行していた(いる)
☐7 学校で就労支援を受けていて、学校に任せていた(いる)

↓

ご家族はどのようなところで調べたり、相談していましたか(いますか)？

()

高校や専門学校・短大・大学での障害の開示についてうかがいます

- ⑧ 最後の在籍校で障害について学校(担任・教務関係)に伝えている(いた)場合、その時期は？

- ☐1 入学が決まってから通学開始するまでの間
☐2 通学開始後、学校生活上に支援の必要性を感じてから
☐3 単位の取得など卒業するための支援の必要性を感じてから
☐4 その他 ()

- ⑨ 最後の在籍校で障害について学校(担任・教務関係)に伝えている(いた)場合、伝えることに
 本人は？

- ☐1 納得しており、本人も同席をした
☐2 納得していたが、本人は同席しなかった
☐3 納得していなかったが、本人も知っていた
☐4 納得していなかったため、本人には知らせなかった
☐5 その他 ()

- ⑩ 最後の在籍校で障害について学校(担任・教務関係)に伝えていない(いなかった)場合、その理由
 は？

- ☐1 親子とも配慮や支援を受ける必要がないと考えている(いた)から
☐2 伝えても必要な配慮や支援が受けられないと考える(考えた)から
☐3 本人が伝えて欲しくないと考えている(いた)から
☐4 その他 ()

専門学校・短大・大学に通学している(通学していた)方にうかがうときの選択肢です

⑪ 在籍している学校はどのような学校ですか？

該当するもの全てに✓を

- ☐1 学校側からの配慮がある
 ☐2 ゆったりと単位取得ができる
- ☐3 特別の配慮がないが相談できる
 ☐4 資格取得のための課程ではない
- ☐5 資格の取得を目指す課程である

↓

どのような資格取得を目指す課程ですか（ ）

卒業するには資格取得や資格試験受験が必須ですか

- 1 資格取得を目指すことが必須である □2 資格を目指すさなくても卒業できる

⑫ 就職についてどのような情報や支援を得ています(いました)か？

該当するものを全てを選択

- ☐1 まだ就職についての情報や支援を求めている(いなかった)
- ☐2 一般の学生と同じ就職セミナー ☐3 就職担当が障害について聞いてくれた
- ☐4 障害を持つ学生のための合同面接会の情報を教えてもらった
- ☐5 障害を持つ学生のための合同面接会と一緒に行ってくれた
- ☐6 本人のために具体的な障害者雇用の就職先の候補を提示してくれた
- ☐7 その他 (

在学中に通常学級から特別支援学級や特別支援学校に進路変更をしたことがある方のみ

⑬ 進路変更を決心した理由は何ですか？

あてはまるもの全てと、その中で最も大きな理由はどれかうかがいます

- ☐ () 1 学習についての支援が得られやすいと思ったから
- ☐ () 2 友人関係でうまくいかないことが多くなっていたから
- ☐ () 3 本人が心理的な面で学校に適応しやすいと思ったから
- ☐ () 4 体育や手を使う活動の参加への配慮が得やすいと思ったから
- ☐ () 5 卒業後の進路について支援や指導を受けやすいと思ったから
- ☐ () 6 本人が希望したから
- ☐ () 7 その他 ()

千葉リハアンケート 記入上の注意

調査対象は**家族**です。対面あるいは電話で聞き取っていただくことを前提としています。
「2 千葉協力お願い(家族用)」の中の■調査の方法＜方法＞に**千葉で実施時の流れ**があります。
質問の数が多いように見えますが、在籍校等のカルテ等で確認できる基本的な情報は、あらかじめ記入しておく等で、家族に実際聞き取る項目を抑えると短時間で実施できると思います。
質問票の構成が複雑なので、以下にざっとした説明を作成いたしましたので、ご覧ください。

項目	注意点
調査票	お子さんが「在学中の方用」と「卒業後の方用」の2種類あるので選択願います 質問や回答の時制(現在か過去か)が異なるだけで、項目数や回答の選択肢は同じです。
問1 ※ 問2 ※ 問6 ※ 問9 ※	基本情報票やカルテ等で確認できる情報が多いと思われるので家族への聞き取り開始までに記入を済ませ、 <u>不明な点だけ確認</u> するとよいと思います。 その時期が1 発症前にあたるとき、その時期の在籍した園や学校を選択して下さい その時期が2 発症の時期にあたるとき、発症前に在籍した園や学校を選択し、さらに 発症により通所通学先の変更があったかどうかを選択し、 変更があった場合は変更先の園や学校を選択して下さい。 その時期が3(その時期以前の発症で)発症後にあたるとき、在籍した園や学校を選択して下さい。
問3 問4 問7 問10	受傷後、どの時期に、進路(進学先)や在籍校について本人の意向がはっきりしてくるのかを確認するための項目です。(受傷前の時期は回答不要です) 各時期で、本人の意向がはっきりしていたかどうか、進路決定が本人の意向、支援者の意向にどのよう に沿っていたかを選択して下さい。
問5	中学生以後の発症の方は回答が不要です。配慮を受けたかどうかとその内容を選択・記入。
問8	高校生以後の発症の方は回答が不要です。配慮を受けたかどうかとその内容を選択・記入。
問9	選択肢のサポート校とは高等学校通信教育を受けている生徒や高等学校卒業程度認定試験合格を目指す個人に対して、学習に対する支援などを行う教育施設のことです。
問12～16	高校に在学中の方、専門学校・短大・大学に通学しなかった方は回答不要です。 問13 ※、14 ※は基本情報票やカルテ等で確認できる情報が多いと思われるので家族への聞き 取り開始までに記入を済ませ、 <u>不明な点だけ確認</u> するとよいと思います。
問17～20	就職のために学校以外の支援機関を利用している(利用した)かどうか、利用の有無で該当の項目が 異なります。利用の有無のそれぞれの理由、それぞれご家族がどのように関わっているかについてうかがっ ています。
問21～24	最終学校(在学中の方は在籍校)で、障害について伝えていた(いる)か、伝えたタイミングや、伝えなかつ た(ていない)理由などをうかがいます。
問25	特別支援教育を利用した方のみに、進路変更の理由をうかがう項目です。あてはまるものすべてにチエッ クをして、最も大きい理由に○をつけます。

【お問い合わせ先】 千葉県千葉リハビリテーションセンター高次脳機能障害支援センター
TEL : 043-291-1831 (内 198・754) FAX : 043-291-1847 (地域連携部)
E-mail : kojinoushien@chiba-reha.jp

学童期・青年期にある高次脳機能障害者に対する総合的な支援に関する研究

調査への協力をお願い

■ 調査名 「青年期における社会適応活動支援プログラムの検討の為の調査」

後述の「総合的な研究計画」のように、当センターでは「青年期における社会適応活動支援プログラムの検討」を進めようとしているところです。今年度は、どのような背景を持つ方を対象者として支援プログラムを進めようとしているのかを明らかにするため、青年期に至った小児期発症者がそこまでどのような教育的な支援と就労支援を受けているかという現状を調査することとなりました。

■ 調査の方法

<対象> 18歳未満の発症で、2014年4月1日現在満15歳以上(高校1年生以上)である高次脳機能障害児者のご家族。

<方法>

- 1) ご家族に「調査への協力をお願い」を用いて調査の説明を行い、調査への協力をお願いします。同意していただける場合には「同意書」のご記入いただきます。
- 2) おいでいただくことが困難な場合には、電話でご了解をいただいた上で「調査への協力をお願い」「同意書」「同意撤回書」を郵送し、その後再度電話で説明を行い、協力の同意が得られた場合には「同意書」を返送していただきます。
- 3) 当事者の生年月日、疾患名など基本的な情報、および調査票項目の内診療録から転記できる項目はあらかじめ転記しておきます。
- 4) その後、都合のよいお時間に、電話にて、調査票項目の内容について、ご家族より聞き取り調査を行います。およその内容は後掲の通りで、所要時間は15～30分の予定です。(面接の場合は同意に引き続き聞き取らせていただくこともあります)
- 5) 調査に同意されない場合、および同意後同意を撤回された場合には、調査の対象から除外させていただきます。

<結果の分析> 個人が特定できないよう集計処理します。

<成果の活用> 事業報告書・研修会・研究会・学会などで発表します

■ 同意と撤回の自由について

この調査の協力に同意しないこと、あるいは同意後に撤回することにより、不利益を受けることはありません。同意後に撤回したい場合は、同意撤回書を問合せ先に郵送していただくか、高次脳機能障害支援センタースタッフの誰でもよいのでその旨伝えて下さい。

■ この研究の問合せ先

〒266-0005 千葉市緑区誉田町 1-45-2

千葉県千葉リハビリテーションセンター高次脳機能障害支援センター

電話：043-291-1831(内線 198) メール：kojinoushien@chiba-reha.jp

支援センター長 大塚 恵美子

総合的な研究計画

今回の調査は、以下の研究の中で分担して実施するものです。

一般社団法人日本損害保険協会自賠責運用益拠出事業

研究課題：学童期・青年期にある高次脳機能障害者に対する総合的な支援に関する研究

研究代表者：富山県高志リハビリテーション病院 野村忠雄

■ 研究の背景と目的

成人期に発症した高次脳機能障害の人たちの地域生活や就労に関する支援に比べ、小児期に発症した高次脳機能障害児・者(以下、小児期発症者)に対する支援は遅れており、全国的に見るとようやくその端緒についたところです。

小児期発症者の社会復帰先は、多くの場合、教育の場である学校であり、復帰先の場合が当初からあることで「小児は成人期発症者よりも恵まれている」と誤解されることが多いのですが、現実には、十分なリハビリ期間と支援体制が取れないまま復学せざるを得ずむしろ厳しい環境に置かれています。また、小児期の脳は可塑性に富み回復力があり、小児期発症の高次脳機能障害者の予後は比較的良いとされていますが、対象者本人の回復速度を遥に凌駕する速さで、他の子どもたちは成長します。同学年の子どもたちと能力の差は徐々に目立つようになり、適切な対応がなされなければ落ちこぼれていくといった現象が起きることが稀ではありません。また、教育終了後も、社会的な人間関係の取り方を体験的に学ぶ機会がないまま就労するため、職場での適応が難しく転職を繰り返したり、非現実的な職業選択希望を持ち続けて居場所を無くすなど、成人期発症者とは異なる難しい問題が存在します。さらに、小児期発症者の家族が考える問題も、成人発症者や発達障害児の家族と異なります。

こうした小児期発症者を取り巻く環境に対し、小児期から成人期にいたる長いライフスパンをその人らしく過ごせる支援方法について、医学・教育・就労・家庭からの多角的な、総合的な支援モデルの作成を目指し、今年度から3年度にわたり、以下のように全国5県の支援拠点機関が協力して研究をすることになりました。研究項目と分担は以下の通りです。

- | | |
|----------------------------|---------------|
| 1. 学童期の集団活動に必要なプログラムの検討 | →諏訪の杜病院(大分県) |
| 2. 医療機関と教育機関の支援の連携についての検討 | →神奈川県総合リハセンター |
| 3. 小児高次脳機能障害者の家族支援プログラムの検討 | →聖隷三方原病院(静岡県) |
| 4. 青年期における社会適応活動支援プログラムの検討 | →千葉県千葉リハセンター |
| 5. 青年期におけると就労定着支援システムの検討 | →富山県高志リハ病院 |

今回の調査内容について

- 1) お子さんの通学された学校やそこで受けた教育的な配慮の有無とその内容
- 2) 発症後どの学校に通うかなど進路についての希望のお子さんとのズレの有無
- 3) 専門学校・短大・大学に通学したか通学中のお子さんについて、障害の開示の状況など
- 4) 在学中に学校から得られた就職についての情報や支援の有無とその内容
- 5) 在学中に学校以外の就労支援機関の利用の有無とその支援機関名
- 6) 就職に向けてご家族がどのように関わられている(いた)かについて

なお、調査はインタビューさせていただき聞き取りで行いますが、回答の選択肢が用意してありますので、代表的な選択肢を別紙で用意させていただきましたので、ご覧ください。

何卒よろしくご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします

同 意 書

千葉県千葉リハビリテーションセンター センター長様

〔調査名〕「青年期の社会適応支援システムの検討」のための基礎的調査

上記調査の協力にあたり、_____より説明文書を用いて説明を受け、以下の項目について十分理解しましたので、実施する調査に協力し、そこから得られるデータの使用について同意します。

.....

説明を受けて理解した項目の□の中にレ印をつけてください

- ☐ 研究の目的と方法を理解しました。
 - ☐ プライバシーが保護されることを理解しました。
 - ☐ 研究成果の公表では、個人を特定できる情報は公開されないことを理解しました。
 - ☐ 研究途中でいつでも協力を撤回することができることを理解しました。
 - ☐ 撤回したいときには、同意撤回書を用いることを理解しました。
 - ☐ 協力に同意しないことや協力を撤回することで不利益を受けないことを理解しました。
-

平成 年 月 日

研究協力者 氏 名

住 所

同 意 撤 回 書

千葉県千葉リハビリテーションセンター センター長様

〔調査名〕「青年期の社会適応支援システムの検討」のための基礎的調査

上記調査に協力するにあたり、研究責任者から説明を受け、十分理解し同意しましたが、自由意思による協力の中止も自由であることから、この調査協力への同意を撤回したく、ここに同意撤回書を提出します。

お子様のお名前： _____

保 護 者 署 名： _____

署 名 年 月 日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

本調査の協力に関する同意は撤回されたことを確認します。

研究責任者氏名 _____

⑤『青年期おける就労定着支援システムの検討に関する調査票』

- ・調査票 A、B、C（本人用）
- ・〃 D（家族用）
- ・調査協力者の皆様への説明・同意書
- ・調査協力依頼・同意書（学校用）

分担研究者：野村 忠雄

（富山県高志リハビリテーション病院）

調査票④ 離職経験があり、現在も未就労の方がお答えください。

(質問には、直近の離職した仕事に関してお答え下さい)

問1 就職された際は、どこへ相談されましたか？(複数回答可) 1☐ハローワーク(一般) 2☐ハローワーク(障害者枠) 3☐障害者職業センター 4☐就労移行支援事業所 5☐就労継続A型事業所 6☐就労継続B型事業所 7☐就業・生活支援センター 8☐高次脳機能障害支援センター 9☐医療機関 10☐家族の紹介 11☐友人・知人・親戚の紹介 12☐卒業した学校 13☐どこにも相談していない 14☐その他()		
問2 高次脳機能障害について職場側に伝えましたか？ 1☐本人が伝えた 2☐家族が伝えた 3☐本人・家族以外の方が伝えた 4☐誰も伝えていない(理由:)		
問3 何歳の時に就職されましたか？ () 歳		
問4 仕事の業種についてお聞きます。(主なもの1つ) 1☐農業 2☐林業 3☐漁業 4☐鉱業 5☐製造業 6☐建設業 7☐エネルギー・水道 8☐卸・小売業 9☐運輸業 10☐情報・通信業 11☐金融・保健業 12☐不動産業 13☐飲食・宿泊業 14☐サービス業 15☐医療・福祉 16☐公務員 17☐その他()		
問5 仕事内容についてお聞かせください。(主なもの1つ) 1☐事務(補助) 2☐作業系 3☐清掃 4☐販売・サービス 5☐その他()		
問6 仕事の雇用形態についてお聞きます。 1☐一般雇用(パート・アルバイトを含む) 2☐障害者雇用 3☐福祉的就労(就労継続A型事業所を含む)		
問7 雇用条件についてお聞きます。 1☐正規雇用 2☐期間契約雇用(40時間/週) 3☐期間契約雇用(30～39時間/週) 4☐期間契約雇用(20～29時間/週) 5☐期間契約雇用(19時間未満/週) 6☐その他()		
問8 給料は1カ月でどれぐらい貰っていましたか？ 1☐5万円未満 2☐5万円～10万円未満 3☐10万円～15万円未満 4☐15万円～20万円未満 5☐20万円～25万円未満 6☐25万円～30万円未満 7☐30万円以上		

問 9 通勤方法についてお聞きます。(複数回答可) 1□公共交通機関 (JR・バス) 2□自力運転 3□家族・知人運転 4□会社送迎車 5□自転車 6□徒歩 7□その他 ()
問 10 職場内での支援体制についてお聞きます。(複数回答可) 1□仕事の指示をする人が決まっていた 2□仕事の内容が決まっていた 3□時間的に配慮されていた (短時間勤務) 4□理解ある上司がいた 5□相談する人が決まっていた 6□特に配慮はなかった 7□その他 ()
問 11 職場以外での支援体制についてお聞きます。(複数回答可) 1□支援機関の職員が定期的に訪問や相談に乗ってくれていた 2□同じ悩みを持った人たちの集まりが定期的にあった () 3□学校の先生が定期的に訪問や相談に乗ってくれた。 4□家族以外で個人的に相談にのってくれる人がいた () 5□家族が相談にのってくれた 6□家族が会社との調整をしてくれた 7□支援はなかった 8□支援を必要と思わなかった (理由:)
問 12 仕事はどれぐらい継続されましたか? (在籍期間について) 1□1 年未満 2□ () 年 3□その他 ()
問 13 離職の理由をお聞かせください。(複数回答可) 1□給料が安い 2□仕事の内容が簡単すぎる 3□仕事の内容が難しい 4□仕事の量が多い 5□仕事の量が少ない 6□始業時間が早い 7□始業時間が遅い 8□勤務時間が長い 9□勤務時間が短い 10□上司との関係が悪かった 11□同僚との関係が悪かった 12□自分への評価が低かった 13□会社側から辞めるように言われた 14□その他 ()
問 14 仕事に対する満足度についてお聞きます。 1□大いに満足だった 2□やや満足だった 3□どちらともいえなかった 4□大いに不満だった 5□やや不満だった
問 15 仕事への満足感・不満足の要素についてお聞きます。(複数可) 1□給与の額 (多い・普通・少ない) 2□仕事の内容 (簡単すぎる・普通・難しい) 3□仕事の量 (多い・普通・少ない) 4□人間関係 (良い・普通・悪い) 5□勤務時間 (早い・遅い・普通・拘束時間が長い・拘束時間が短い)

問 16 離職したときは、どんなお気持ちでしたか。(複数回答可) 1□特に何も感じなかった 2□ほっとした 3□辛かった 4□焦った 5□仕方がないと思った 6□会社の配慮が欲しかった 7□その他 ()
問 17 離職回数についてお聞かせください。 1□ () 回 2□覚えていない
問 18 これから、どうしたいですか？ 1□わからない 2□しばらく休みたい 3□しばらく働きたくない 4□早く働きたい 5□訓練に行きたい 6□資格をとりたい
問 19 現在利用している支援機関についてお聞きします。(複数回答可) 1□何も利用していない 2□就労移行支援事業所 3□就労継続 B 型事業所 4□職業訓練校 5□障害者職業センター 6□就業・生活支援センター 7□医療機関 8□高次脳機能障害支援センター 9□その他 ()
問 20 仕事を継続するために、どんな支援が必要だと思いますか？(自由記載) _____ _____
問 21 趣味(楽しみ)の有無について 1□趣味はない 2□趣味がある (内容:)
問 22 現在の生活の張り合いの有無について 1□張り合いがない 2□張り合いがある(内容:)

アンケートは以上です。ご協力をありがとうございました。

調査票② 離職経験があり、現在就労している方がお答えください。

(離職した仕事は、直近の仕事に関してお答え下さい)

はじめに、離職した直近の仕事についてお聞きします。

問1 就職された際は、どこへ相談されましたか？(複数回答可)

- | | | |
|----------------|-----------------|-------------|
| 1□ハローワーク(一般) | 2□ハローワーク(障害者枠) | 3□障害者職業センター |
| 4□就労移行支援事業所 | 5□就労継続A型事業所 | 6□就労継続B型事業所 |
| 7□就業・生活支援センター | 8□高次脳機能障害支援センター | 9□医療機関 |
| 10□家族の紹介 | 11□友人・知人・親戚の紹介 | 12□卒業した学校 |
| 13□どこにも相談していない | 14□その他() | |

問2 高次脳機能障害について職場側に伝えましたか？

- | | | |
|------------------|----------|-----------------|
| 1□本人が伝えた | 2□家族が伝えた | 3□本人・家族以外の方が伝えた |
| 4□誰も伝えていない(理由:) | | |

問3 何歳の時に就職されましたか？

() 歳

問4 仕事の業種についてお聞きします。(主なもの1つ)

- | | | | | | |
|------------|---------|-----------|-----------|-------|-------|
| 1□農業 | 2□林業 | 3□漁業 | 4□鉱業 | 5□製造業 | 6□建設業 |
| 7□エネルギー・水道 | 8□卸・小売業 | 9□運輸業 | 10□情報・通信業 | | |
| 11□金融・保健業 | 12□不動産業 | 13□飲食・宿泊業 | 14□サービス業 | | |
| 15□医療・福祉 | 16□公務員 | 17□その他() | | | |

問5 仕事内容についてお聞かせください。(主なもの1つ)

- | | | | |
|----------|-------|------|-----------|
| 1□事務(補助) | 2□作業系 | 3□清掃 | 4□販売・サービス |
| 5□その他() | | | |

問6 仕事の雇用形態についてお聞きします。

- | | |
|-----------------------|---------|
| 1□一般雇用(パート・アルバイトを含む) | 2□障害者雇用 |
| 3□福祉的就労(就労継続A型事業所を含む) | |

問7 雇用条件についてお聞きします。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1□正規雇用 | 2□期間契約雇用(40時間/週) |
| 3□期間契約雇用(30~39時間/週) | 4□期間契約雇用(20~29時間/週) |
| 5□期間契約雇用(19時間未満/週) | 6□その他() |

問 8 給料は 1 カ月でどれぐらい貰っていましたか？ 1□5 万円未満 2□5 万円～10 万円未満 3□10 万円～15 万円未満 4□15 万円～20 万円未満 5□20 万円～25 万円未満 6□25 万円～30 万円未満 7□30 万円以上		
問 9 通勤方法についてお聞きします。(複数回答可) 1□公共交通機関 (JR・バス) 2□自力運転 3□家族・知人運転 4□会社送迎車 5□自転車 6□徒歩 7□その他 ()		
問 10 職場内での支援体制についてお聞きします。(複数回答可) 1□仕事の指示をする人が決まっていた 2□仕事の内容が決まっていた 3□時間的に配慮されていた (短時間勤務) 4□理解ある上司がいた 5□相談する人が決まっていた 6□特に配慮はなかった 7□その他 ()		
問 11 職場以外での支援体制についてお聞きします。(複数回答可) 1□支援機関の職員が定期的に訪問や相談に乗ってくれていた 2□同じ悩みを持った人たちの集まりが定期的にあった () 3□学校の先生が定期的に訪問や相談に乗ってくれた。 4□家族以外で個人的に相談にのってくれる人がいた () 5□家族が相談にのってくれた 6□家族が会社との調整をしてくれた 7□支援はなかった 8□支援を必要と思わなかった (理由:)		
問 12 仕事はどれぐらい継続されましたか？ (在籍期間について) 1□1 年未満 2□ () 年 3□その他 ()		
問 13 離職された理由をお聞かせください。(複数回答可) 1□給料が安い 2□仕事の内容が簡単すぎる 3□仕事の内容が難しい 4□仕事の量が多い 5□仕事の量が少ない 6□始業時間が早い 7□始業時間が遅い 8□勤務時間が長い 9□勤務時間が短い 10□上司との関係が悪かった 11□同僚との関係が悪かった 12□自分への評価が低かった 13□会社側から辞めるように言われた 14□その他 ()		
問 14 仕事に関する満足度についてお聞きします。 1□大いに満足だった 2□やや満足だった 3□どちらともいえなかった 4□大いに不満だった 5□やや不満だった		

問 15 仕事への満足感・不満足の要素についてお聞きます。(複数可) 1□給与の額(多い・普通・少ない) 2□仕事の内容(簡単すぎる・普通・難しい) 3□仕事の量(多い・普通・少ない) 4□人間関係(良い・普通・悪い) 5□勤務時間(早い・遅い・普通・拘束時間が長い・拘束時間が短い)
問 16 離職したときは、どんなお気持ちでしたか。(複数回答可) 1□特に何も感じなかった 2□ほっとした 3□辛かった 4□焦った 5□仕方がないと思った 6□会社の配慮が欲しかった 7□その他 ()
問 17 離職回数についてお聞かせください。 1□ () 回 2□覚えていない
ここからは、現在の仕事についてお聞きます。 問 18 就職された際に、どこへ相談されましたか？(複数回答可) 1□ハローワーク(一般) 2□ハローワーク(障害者枠) 3□障害者職業センター 4□就労移行支援事業所 5□就労継続 A 型事業所 6□就労継続 B 型事業所 7□就業・生活支援センター 8□高次脳機能障害支援センター 9□医療機関 10□家族の紹介 11□友人・知人・親戚の紹介 12□卒業した学校 13□どこにも相談していない 14□その他 ()
問 19 高次脳機能障害について職場側に伝えましたか？ 1□本人が伝えた 2□家族が伝えた 3□本人・家族以外の人が伝えた 4□誰も伝えていない(理由:)
問 20 何歳の時に就職されましたか？ () 歳
問 21 現在の仕事の業種についてお聞きます。(主なもの 1 つ) 1□農業 2□林業 3□漁業 4□鉱業 5□製造業 6□建設業 7□エネルギー・水道 8□卸・小売業 9□運輸業 10□情報・通信業 11□金融・保健業 12□不動産業 13□飲食・宿泊業 14□サービス業 15□医療・福祉 16□公務員 17□その他 ()
問 22 現在の仕事の内容についてお聞かせください。(主なもの 1 つ) 1□事務(補助) 2□作業系 3□清掃 4□販売・サービス 5□その他 ()
問 23 現在の仕事の雇用形態についてお聞きます。 1□一般雇用(パート・アルバイトを含む) 2□障害者雇用 3□福祉的就労(就労継続 A 型事業所を含む)

問 24	現在の雇用条件についてお聞きます。		
1 ☐ 正規雇用	2 ☐ 期間契約雇用（40 時間／週）		
3 ☐ 期間契約雇用（30～39 時間／週）	4 ☐ 期間契約雇用（20～29 時間／週）		
5 ☐ 期間契約雇用（19 時間未満／週）	6 ☐ その他（ ）		
問 25	現在の給料は 1 カ月でどれくらい貰っていますか？		
1 ☐ 5 万円未満	2 ☐ 5 万円～10 万円未満	3 ☐ 10 万円～15 万円未満	
4 ☐ 15 万円～20 万円未満	5 ☐ 20 万円～25 万円未満	6 ☐ 25 万円～30 万円未満	
7 ☐ 30 万円以上			
問 26	現在の通勤方法についてお聞きます。（複数回答可）		
1 ☐ 公共交通機関（JR・バス）	2 ☐ 自力運転	3 ☐ 家族・知人運転	
4 ☐ 会社送迎車	5 ☐ 自転車	6 ☐ 徒歩	7 ☐ その他（ ）
問 27	現在の職場内での支援体制についてお聞きます。（複数回答可）		
1 ☐ 仕事の指示をする人が決まっている	2 ☐ 仕事の内容が決まっている		
3 ☐ 時間的に配慮されている（短時間勤務）	4 ☐ 理解ある上司がいる		
5 ☐ 相談する人が決まっている	6 ☐ 特に配慮はない		
7 ☐ その他（ ）			
問 28	現在の職場以外での支援体制についてお聞きます。（複数回答可）		
1 ☐ 支援機関の職員が定期的に訪問や相談に乗ってくれている			
2 ☐ 同じ悩みを持った人たちの集まりが定期的にある（ ）			
3 ☐ 学校の先生が定期的に訪問や相談に乗ってくれる。			
4 ☐ 家族以外で個人的に相談にのってくれる人がいる（ ）			
5 ☐ 家族が相談にのってくれる			
6 ☐ 家族が会社との調整をしてくれる			
7 ☐ 支援はない			
8 ☐ 支援を必要と思わない（理由： ）			
問 29	現在の仕事はどれくらい継続されていますか？（在籍期間について）		
1 ☐ 1 年未満	2 ☐ （ ） 年	3 ☐ 覚えていない	
問 30	現在の仕事に関する満足度についてお聞きます。		
1 ☐ 大いに満足である	2 ☐ やや満足である	3 ☐ どちらともいえない	
4 ☐ 大いに不満足である	5 ☐ やや不満足である		
問 31	現在の仕事への満足感・不満足の要素についてお聞きます。（複数可）		
1 ☐ 給与の額（多い・普通・少ない）	2 ☐ 仕事の内容（簡単すぎる・普通・難しい）		
3 ☐ 仕事の量（多い・普通・少ない）	4 ☐ 人間関係（良い・普通・悪い）		
5 ☐ 勤務時間（早い・遅い・普通・拘束時間が長い・拘束時間が短い）			

問 32 現在の仕事に対する気持ちについてお聞きします。

1□ぜひ続けたい	2□できれば続けたい	3□別の仕事があれば辞めたい
4□近いうちに辞めたい	5□その他（	）

)

問 33 仕事を継続するために、どんな支援が必要だと思いますか？（自由記載）

問 34 趣味（楽しみ）の有無について

1 ☐ 趣味はない

2 ☐ 趣味がある （内容： ）

)

問 35 現在の生活の張り合いの有無について

1☐張り合いがない

2☐張り合いがある（内容：_____）

)

アンケートは以上です。ご協力をありがとうございました。

調査票◎ 離職経験のない方がお答えください。

(質問には、現在の仕事に関してお答え下さい)

問1 就職された際は、どこへ相談されましたか？(複数回答可) 1☐ハローワーク(一般) 2☐ハローワーク(障害者枠) 3☐障害者職業センター 4☐就労移行支援事業所 5☐就労継続A型事業所 6☐就労継続B型事業所 7☐就業・生活支援センター 8☐高次脳機能障害支援センター 9☐医療機関 10☐家族の紹介 11☐友人・知人・親戚の紹介 12☐卒業した学校 13☐どこにも相談していない 14☐その他()			
問2 高次脳機能障害について職場側に伝えましたか？ 1☐本人が伝えた 2☐家族が伝えた 3☐本人・家族以外の方が伝えた 4☐誰も伝えていない(理由:)			
問3 何歳の時に就職されましたか？ () 歳			
問4 仕事の業種についてお聞きます。(主なもの1つ) 1☐農業 2☐林業 3☐漁業 4☐鉱業 5☐製造業 6☐建設業 7☐エネルギー・水道 8☐卸・小売業 9☐運輸業 10☐情報・通信業 11☐金融・保健業 12☐不動産業 13☐飲食・宿泊業 14☐サービス業 15☐医療・福祉 16☐公務員 17☐その他()			
問5 仕事内容についてお聞かせください。(主なもの1つ) 1☐事務(補助) 2☐作業系 3☐清掃 4☐販売・サービス 5☐その他()			
問6 仕事の雇用形態についてお聞きます。 1☐一般雇用(パート・アルバイトを含む) 2☐障害者雇用 3☐福祉的就労(就労継続A型事業所を含む)			
問7 雇用条件についてお聞きます。 1☐正規雇用 2☐期間契約雇用(40時間/週) 3☐期間契約雇用(30～39時間/週) 4☐期間契約雇用(20～29時間/週) 5☐期間契約雇用(19時間未満/週) 6☐その他()			

問 8 給料は 1 カ月でどれぐらい貰っていましたか？ 1□5 万円未満 2□5 万円～10 万円未満 3□10 万円～15 万円未満 4□15 万円～20 万円未満 5□20 万円～25 万円未満 6□25 万円～30 万円未満 7□30 万円以上		
問 9 通勤方法についてお聞きします。(複数回答可) 1□公共交通機関 (JR・バス) 2□自力運転 3□家族・知人運転 4□会社送迎車 5□自転車 6□徒歩 7□その他 ()		
問 10 職場内での支援体制についてお聞きします。(複数回答可) 1□仕事の指示をする人が決まっている 2□仕事の内容が決まっている 3□時間的に配慮されている (短時間勤務) 4□理解ある上司がいる 5□相談する人が決まっている 6□特に配慮はない 7□その他 ()		
問 11 職場以外での支援体制についてお聞きします。(複数回答可) 1□支援機関の職員が定期的に訪問や相談に乗ってくれている 2□同じ悩みを持った人たちの集まりが定期的にある () 3□学校の先生が定期的に訪問や相談に乗ってくれる。 4□家族以外で個人的に相談にのってくれる人がある () 5□家族が相談にのってくれる 6□家族が会社との調整をしてくれる 7□支援はない 8□支援を必要と思わない (理由:)		
問 12 仕事はどれぐらい継続されていますか？ (在籍期間について) 1□1 年未満 2□ () 年 3□その他 ()		
問 13 仕事に関する満足度についてお聞きします。 1□大いに満足である 2□やや満足である 3□どちらともいえない 4□大いに不満足である 5□やや不満である		
問 14 仕事への満足感・不満足の要素についてお聞きします。(複数可) 1□給与の額 (多い・普通・少ない) 2□仕事の内容 (簡単すぎる・普通・難しい) 3□仕事の量 (多い・普通・少ない) 4□人間関係 (良い・普通・悪い) 5□勤務時間 (早い・遅い・普通・拘束時間が長い・拘束時間が短い)		
問 15 仕事に対する気持ちについてお聞きします。 1□ぜひ続けたい 2□できれば続けたい 3□別の仕事があれば辞めたい 4□近いうちに辞めたい 5□その他 ()		

問 16 仕事を継続するために、どんな支援が必要だと思いますか？（自由記載）

問 17 趣味（楽しみ）の有無について

1☐趣味はない

2☐趣味がある （内容： ）

問 18 現在の生活の張り合いの有無について

1☐張り合いがない

2☐張り合いがある（内容： ）

アンケートは以上です。ご協力をありがとうございました。

調査票④ 離職を経験された方のご家族が、お答えください。

(質問には、一番最近までされていた仕事に関してお答え下さい)

問1 高次脳機能障害について職場側に伝えていましたか？(複数回答可) 1□本人が伝えていた 2□家族が伝えていた 3□本人・家族以外が伝えた 4□誰も伝えていない(理由:)
問2 離職された理由について、どのように考えていらっしゃいますか？(複数回答可) 1□給料が安い 2□仕事の内容が簡単すぎる 3□仕事の内容が難しい 4□仕事の量が多い 5□仕事の量が少ない 6□始業時間が早い 7□始業時間が遅い 8□勤務時間が長い 9□勤務時間が短い 10□上司との関係が悪かった 11□同僚との関係が悪かった 12□本人への評価が低かった 13□会社側から辞めるように言われた 14□わからない 15□その他()
問3 離職された時は、どんな気持ちでしたか？(複数回答可) 1□特に何も感じなかった 2□ほっとした 3□辛かった 4□焦った 5□仕方がないと思った 6□会社の配慮が欲しかった 7□不安だった 8□その他()
問4 職場内での支援体制についてどのように聞いておられますか？(複数回答可) 1□仕事の指示をする人が決まっていた 2□仕事の内容が決まっていた 3□時間的に配慮されていた(短時間勤務) 4□理解ある上司がいた 5□相談する人が決まっていた 6□特に配慮はなかった 7□わからない 8□その他()
問5 職場以外での支援体制についてお聞きます。(複数回答可) 1□支援機関の職員が定期的に訪問や相談に乗ってくれていた 2□同じ悩みを持った人たちの集まりが定期的にあった() 3□学校の先生が定期的に訪問や相談にのってくれた。 4□家族以外で個人的に相談にのってくれる人がいた() 5□家族が相談にのっていた 6□家族が会社との調整をした 7□支援はなかった 8□支援を必要と思わなかった(理由:)

問 6 現在、働いていない方のご家族にのみお聞きします。これから、どうしてほしいと思いますか？ 1□わからない 2□しばらく休んでほしい 3□しばらく働かなくてもよい 4□早く働いてほしい 5□訓練に行ってほしい 6□資格をとってほしい
問 7 仕事を継続するために、どんな支援が必要だと思いますか？（自由記載） _____ _____

アンケートは以上です。ご協力をありがとうございました。

調査協力者の皆様への説明

一般社団法人日本損害保険協会自賠責運用益拠出事業

研究課題：学童期・青年期にある高次脳機能障害者に対する総合的な支援に関する研究

研究代表者：富山県高志リハビリテーション病院長 野村忠雄

分担研究機関：石川県高次脳機能障害相談・支援センター、福井県高次脳機能障害支援センター

成人期に発症した高次脳機能障害の人たちの地域生活や就労に関する支援は、高次脳機能障害支援センターを中心に取組まれるようになってきました。しかし、小児期に発症した高次脳機能障害児・者に対する支援は、未だ十分には取組まれていないのが現状です。

小児期発症者の場合、復帰先の場合が当初からあることで「小児は成人期発症者よりも恵まれている」と誤解されることが多いのですが、現実には、復学に際しての十分なりハビリ期間をとれず、従って十分な支援体制がとれないまま復学せざるを得ないといった厳しい環境に置かれています。また、小児期の脳は可塑性に富み回復力があり、小児期発症の高次脳機能障害者の予後は比較的良いとされていますが、対象者本人の回復速度を遥に凌駕する速さで、他の子どもたちは成長します。同学年の子どもたちとの能力の差が段々出てきて、適切な対応がなされなければ落ちこぼれていくといった現象が起きることが稀ではありません。また、教育終了後も、社会的人間関係の取り方を体験的に学ぶ機会がないまま就労するため職場での適応が難しく転職を繰り返したり、非現実的な職業選択希望を持ち続けて居場所を無くすなど、成人期発症者とは異なる難しい問題が存在します。さらに小児期発症者の家族が抱える問題も成人期発症者や発達障害児の家族と異なります。

こうした小児期発症者を取り巻く環境に対し、その後の長いライフスパンをその人らしく過ごせる支援方法や内容を、医学・教育・就労・家庭からの多角的な、そして総合的な支援モデルを作成することが求められており、私たちは、全国の仲間と協力して以下のことについて研究することになりました。

1. 学童期の集団活動に必要なプログラムの検討
2. 医療機関と教育機関の支援の連携についての検討
3. 小児高次脳機能障害者の家族支援プログラムの検討
4. 青年期における社会適応活動支援プログラムの検討
5. 青年期における就労定着支援システムの検討

富山県高志リハビリテーション病院や高次脳機能障害支援センター、石川県高次脳機能障害相談・支援センター、福井県高次脳機能障害支援センターでお聞きしたことや検査結果、その他の研究に必要な事項につき、診療録や記録を調査することに同意くださいますようお願いいたします。

本調査にあたっては、皆様のプライバシーを厳守し、調査内容を事業の目的以外には使用致しません。また、一旦同意を頂いた場合でも、後日調査対象から離脱を希望される方については調査対象から除外するだけでなく、それまでに調査した事項を速やかに抹消致します。本調査に参加されない方、途中で離脱される方においては、そのようにすることで何ら不利益を被ることはありません。研究成果の公表は報告書、論文、学会発表であり、個人が特定できるような形式で公表されることはありません。

この同意書には署名または捺印を必要としますが、正当な理由で本人が署名も捺印も出来ない場合には家族またはこれに準ずる者の署名または捺印のみで結構です。

上記、ご説明いたしました。

平成 年 月 日

説明者

所属

氏名

印

同	意	書
---	---	---

富山県高志リハビリテーション病院

野村忠雄 殿

私は上記の研究について、説明文を用いた説明を受けました。

つきましては、富山県高志リハビリテーション病院・富山県高次脳機能障害支援センターの診療録・記録等から私の病名、病歴、検査結果などを調査し、それが高次脳機能障害をもつ人たち、とりわけ学童期・青年期にある高次脳機能障害者に対する総合的な支援に関する研究資料として使用されることに同意します。

平成 年 月 日

本人

住所

氏名

印

家族またはこれに準ずる者

住所

氏名

印

本人との続柄

この同意書には署名または捺印を必要としますが、正当な理由で本人が署名も捺印も出来ない場合には
家族またはこれに準ずる者の署名または捺印のみで結構です。

上記、ご説明いたしました。

平成 年 月 日

説明者

所属

氏名

印

同 意 書

富山県高志リハビリテーション病院

野村忠雄 殿

私は上記の研究について、説明文を用いた説明を受けました。

つきましては、石川県リハビリテーションセンター(石川県高次脳機能障害相談・支援センター)
の相談記録等から私の病名、病歴、検査結果などを調査し、学童期・青年期にある高次脳機能障害
者に対する総合的な支援に関する研究資料として使用されることに同意します。

平成 年 月 日

本人

住所

氏名

印

家族またはこれに準ずる者

住所

氏名

印

本人との続柄

は報告書、論文、学会発表であり、個人が特定できるような形式で公表されることはありません。

この同意書には署名または捺印を必要としますが、正当な理由で本人が署名も捺印も出来ない場合には家族またはこれに準ずる者の署名または捺印のみで結構です。

上記、ご説明いたしました。

平成 年 月 日

説明者

所属

氏名

印

同	意	書
---	---	---

福井県高次脳機能障害支援センター
センター長 殿

私は上記の研究について、説明文を用いた説明を受けました。

つきましては、福井総合病院・福井県高次脳機能障害支援センターの診療録・記録等から私の病名、病歴、検査結果などを調査し、それが高次脳機能障害をもつ人たち、とりわけ学童期・青年期にある高次脳機能障害者に対する総合的な支援に関する研究資料として使用されることに同意します。

平成 年 月 日

本人

住所

氏名

印

家族またはこれに準ずる者

住所

氏名

印

本人との続柄

平成 27 年 月 日

教育委員会教育長 様

富山県高次脳機能障害支援センター
センター長 野村忠雄

平成 26 年度自賠責運用益拋出事業

「学童期・青年期にある高次脳機能障害者に対する総合的な支援に関する研究」に係る
調査協力依頼について

平成 13 年 4 月から 5 年間にわたり厚生労働省のモデル事業として高次脳機能障害支援に関する研究が始まり、その中で、人生の途中で起こる高次脳機能障害の方々の中には、小児期に発症し復学や進学に際し様々な困難を抱えている方々もおられることが明らかになりました。しかし、学びの途上で発症した人たちに対する支援は、医療の分野においても教育の分野においても未だ十分にその方法が体系化されているとは言い難い現状です。

教育期間の途上で発症した方々への支援は、医療関係者だけでなく家族や教職員との連携や共同が不可欠です

そこで私たちは、標記研究の一環として、高次脳機能障害を有する児童生徒のみなさんたちに対する学校教育現場での支援の実態を調査し、小児期発症の高次脳機能障害を有する児童生徒の皆さんへの支援に生かしていきたいと考えております。

つきましては、貴管下の関係学校長に調査協力をお願いいたしたく、別添写しのとおり御依頼申し上げますので、よろしく御承知おきください。

なお、不明な点等の照会につきましては、下記までお願いいたします。

事務担当：富山県高次脳機能障害支援センター
萩原 裕香里
〒931-8517 富山市下飯野 3 6
(富山県高志リハビリテーション病院内)
TEL(0 7 6)4 3 8 - 2 2 3 3
FAX(0 7 6)4 3 7 - 5 3 9 0



平成 27 年 月 日

〇〇学校長 様

富山県高次脳機能障害支援センター
センター長 野村忠雄

「学童期・青年期にある高次脳機能障害者に対する総合的な支援に関する研究」に係る
調査協力依頼について

人生の途中で起こる高次脳機能障害の方々の中には、小児期に発症し復学や進学に際し様々な困難を抱えている方々もおります。しかし、学びの途上で発症した人たちに対する支援は、医療の分野においても教育の分野においても未だ十分にその方法が体系化されているとは言い難い現状です。

教育期間の途上で発症した方々への支援は、医療関係者だけでなく家族や教職員との連携や共同が不可欠です

そこで私たちは、上記研究の一環として、高次脳機能障害を有する児童生徒の皆さんに対する学校教育現場での支援の実態を調査し、小児期発症の高次脳機能障害を有する児童生徒の皆さんへの支援に生かしていきたいと考えております。

ご多忙中恐縮に存じますが、本研究の意義を御理解の上、添付調査にご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

【研究代表者】野村忠雄(富山県高次脳機能障害支援センター長)

【主たる研究項目および分担研究者】

1. 学童期の集団活動に必要なプログラムの検討：武居光雄(諏訪の杜病院長、大分県)
2. 医療機関と教育機関の支援の連携についての検討：栗原まな(神奈川県総合リハ・センター小児科、神奈川県)
3. 小児高次脳機能障害者の家族支援プログラムの検討：片桐伯真(聖隷三方原病院 リハ科、静岡県)
4. 青年期における社会適応活動支援プログラムの検討：大塚 恵美子(千葉県千葉リハ・高次脳機能障害支援センター長、千葉県)
5. 青年期におけると就労定着支援システムの検討：野村忠雄(前富山県高志リハビリテーション病院長、富山県)

【ご協力いただきたい内容】

研究項目 1 および 2 のうち、家族から依頼のあった児童生徒の復学または修学に際しての学校生活上の現状および医療機関との連携の必要性に関する意見

なお、本調査にあたっては、プライバシーを厳守し、調査内容を事業の目的以外には使用致しません。また、後日調査対象から離脱を希望される方については調査対象から除外し、それまでに調査した事項を速やかに抹消致します。本調査に参加されない方、途中で離脱される方においては、そのことで何ら不利益を被ることはありません。

研究成果の公表は報告書、論文、学会発表であり、個別学校名が特定できるような形式で公表されることはありません。

同意書

説明者 _____

所 属 _____

氏 名 _____ 印

富山県高次脳機能障害支援センター長
野村忠雄 様

当校は上記の研究について、調査の趣旨を理解しました。

- ☐ 研究の目的と方法を理解しました。
- ☐ プライバシーが保護されることを理解しました。
- ☐ 研究成果の公表では、個人を特定できる情報は公開されないことを理解しました。
- ☐ 研究途中でいつでも協力を撤回・離脱することができることを理解しました。
- ☐ 協力に同意しないことや協力を撤回・離脱することで不利益を受けないことを理解しました。

つきましては、高次脳機能障害を有する学童期の高次脳機能障害者に対する総合的な支援に関する研究資料として使用されることに同意します。

平成 年 月 日

教育機関名

住 所 _____

代表者 _____

記載者 _____

研究者及び協力機関

主任研究員

野村 忠雄(富山県高志リハビリテーション病院 名誉病院長
富山県高次脳機能障害支援センター長)

分担研究員

太田 令子(富山県高志リハビリテーション病院
富山県高次脳機能障害支援センター アドバイザー)
片桐 伯真(聖隷三方原病院 リハビリテーション科部長)
栗原 まな(神奈川県総合リハビリテーションセンター 小児科部長)
武居 光雄(諏訪の杜病院長)
田谷 勝夫(障害者職業総合センター 特別研究員)
深津 玲子(国立障害者リハビリテーションセンター病院
発達障害情報・支援センター長)
吉永 勝訓(千葉県千葉リハビリテーションセンター長)

ワーキング委員

諏訪の杜病院：浅倉 恵子、綾部 可奈、川野 貴嗣、池田 裕也、相馬 聡
神奈川県立秦野養護学校：平 勝正
聖隷三方原病院：小林 尚史、内山 美保、鈴木 香菜子、前田 広士、小桐友広
千葉県千葉リハビリテーションセンター：大塚 恵美子、阿部 里子、廣瀬 綾奈、
中島 友加
富山県高次脳機能障害支援センター：浦田 彰夫、柴田 孝、山本 浩二、長江 和彦、
堀田 啓、大村 智里、水和 佳子、萩原 裕香里、砂原 伸行、太田 令子
石川県高次脳機能障害相談・支援センター：小林 千鶴、林 もも子
福井県高次脳機能障害支援センター：中島 裕也
金城大学医療健康学部：川口 朋子

事務局

〒931-8517 富山市下飯野 36
富山県高志リハビリテーション病院
富山県高次脳機能障害支援センター
電話 (076) 438-2233
FAX (076) 438-7218
メールアドレス koujinou@koshi-rehabili.or.jp
